

## ごあいさつ

NPO 法人 杏  
理事長 相馬 貴久

このたび私たちは、文部科学省による令和3年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に応募し、採択をいただきました。

私どもの法人は、2014年に開所した障害福祉サービス事業所で、生活介護と就労継続支援B型を運営しています。利用者個々に合わせた支援を提供し、地域の中で自分らしく安心した生活を送れることを目指しています。

私たちは、事業名を「瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」とし、瀬戸市の行政と協働で取り組んで参りました。

初年度となる今年度は、本事業の周知を主なねらいとして、市内障害福祉事業所や公民館等の方々にも参加していただきながら、ボッチャを取り入れた障害者の生涯学習の実施や、先進的な取り組みを学ぶ視察研修を行って参りました。

この間、親身にご助言いただいた文部科学省障害者学習支援推進室のみなさま、ご多忙な中、会議や視察研修、各事業に積極的にご参加いただいた連携協議会委員のみなさま、また事業の運営に携わっていただいた、公民館や障害福祉事業所、さくらんぼサポートステーションのみなさま、最後に、日々の多忙な業務に加え、事業の実施にご協力いただいた瀬戸ボッチャクラブのみなさまに心から感謝申し上げます。

瀬戸市で障害者や生涯学習に関わる皆さまにこの事業について知っていただき、ご自身に関わるそれぞれの立場で少しでも障害者の生涯学習について考えるきっかけになれば幸いです。

そして、本事業が継続・発展し、障害者の方々の多様な「学び」の機会を充実させていくことができるよう、皆さまのご理解とご支援を、どうかよろしくごお願い申し上げます。

ごあいさつ

瀬戸市長 伊藤 保徳

本市では、障害福祉事業所 NPO 法人杏と協働で、令和 3 年度文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を実施しました。この取り組みは、障害のある方々が生涯にわたり自らの可能性を追求するとともに、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取り組みです。全国で 22 カ所、東海北陸ブロックではわずか 2 カ所での事業となり、先進的な取り組みと言えます。瀬戸市の事業の柱である「ボッチャ大会」に足を運び、東京パラリンピックで杉村選手が素晴らしいテクニックで見事金メダルを獲得した時の感動を思い出しました。また、大会には多くの方が関わってくださっており、本当にありがたいことだと思いました。

学校卒業後の障害者が地域で学ぶという視点は、大切な視点です。誰もが学びたいときに、いつでも学べる社会、障害の有無に関わらず共に学び、生きる共生社会の実現を目指して参ります。

本事業を実施するにあたり、ご尽力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

## 目 次

あいさつ	.....	1
目次	.....	3
1. 事業計画	.....	5
2. 事業実施日程一覧	.....	13
3. 連携協議会	.....	14
4. 学習プログラムの開発	.....	25
I 「ボッチャ」をとおしての学びの場づくり	.....	27
II 視察研修	.....	57
III 成果報告会	.....	78
IV コンファレンス	.....	104
5. 総括	.....	116
編集後記	.....	118



# 1. 事業計画

事業の題名：「瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

NPO法人杏は令和3年2月8日文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課発令の、令和3年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業「(1) 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究 (イ) 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」公募要領に基づき、瀬戸市と協働で、事業名を「瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」とし実践研究を応募した。全国18団体の1つに採択され、一年目の事業を進めてきた。

以下、文部科学省に提出・採択された「企画提案書」より本実践研究の事業計画を紹介する。

## 1. 効果的な学習プログラムの実施

本プログラムのねらいは、既に市内の学校で盛んに行われているボッチャを活用し、地域においてボッチャができる場を整備し、学校卒業後も障害者が活動する機会を提供するとともに、地域住民がボッチャを通じて一緒になって活動できる場を整備することを目標とする。また、同時に地域への障害理解を深めることも目的とする。

瀬戸市立瀬戸特別支援学校が瀬戸市教育委員会の未来創造事業の一環として行ってきたボッチャ大会を継承し、発展させていくために「瀬戸ボッチャクラブ」が設立されている。中学部・高等部の生徒たちは日本ボッチャ協会主催の全国ボッチャ選抜甲子園などで功績を残すなどの実績があるものの、学校を卒業してからはその活動が継続して行える機会や場所がないという現状がある。地域の公民館等では数々の生涯学習事業が行われているが、障害者への視点が欠けていることが感じられる。

初年度となる令和3年度は、既存のボッチャ大会に障害福祉事業所が参加し、交流を図るとともに、地域が「障害者の生涯学習」を実施するための第一歩として、その成果を公民館長や障害福祉事業所職員等へ報告するものとする。また、瀬戸特別支援学校が含まれる光陵中学校区（原山小学校、萩山小学校、八幡小学校、光陵中学校、瀬戸特別支援学校）に同年設置される小中特支協働型コミュニティ・スクール（学校運営協議会・地域学校協働本部）と連携し、ボランティアを募り、地域住民の障害者を支える仕組みづくりを行うとともに、障害者の生涯学習の取り組みをより多くの市民に対して知ってもらう機会とする。

それぞれの内容は以下のとおりである。

### ◇障害福祉事業所への講習会(7月)、地域向け講習会(7月)

障害福祉事業所においては、利用者のできることを、やりたいことを活かしながら、事業を行ってきた。利用者からは、学校卒業後でも学校で行ってきたフライングディスクや陸上、音楽等、スポーツ・文化芸術活動をしたい、様々な人と関わりたいという声があった。本事業で行うボッチャの

取り組みは、そんな思いを少しでも実現する取り組みとなる。

今回、本プログラムに定めるボッチャ大会を開催するにあたり、障害福祉事業所においてもボッチャを普及する必要があることから、事前学習として講師(ボッチャ指導員)を招き、事業所の支援者も含めたボッチャ講習会を開催する。当面は市内の3事業所程度15名の参加を目指し、参加者の選出においては、障害者本人の意向に十分配慮するものとする。これらを通して、障害者本人の新たな趣味の獲得や、ボッチャ経験者の発掘・意欲や能力の向上等も期待できる。

講習会に参加した各事業所はその後余暇時間や活動の一環としてボッチャの練習を組み入れ、大会参加の準備・練習を進めるとともに次年度以降も継続して同様のプログラムに参加できるよう働きかけていく。

また、これとは別日程で本実践研究事業とボッチャや大会について知ってもらうことをねらいに、地域住民向けのボッチャ講習会(7月15名程度)を開催する。この講習会をきっかけに本事業と大会を支援するボランティアの育成・獲得にも取り組む。

どちらの講習会においても、はじめにボッチャの歴史や文化に関する説明も取り入れ、単なるボッチャの練習にとどまらないよう考慮する。

なお、一般社団法人日本ボッチャ協会「新型コロナウイルス感染症に伴うボッチャ活動再開指針」を参考に、感染拡大防止対策をとったうえで原則対面での開催を計画するとともに、感染拡大状況に応じてオンラインによる代替プログラム(ボッチャ学習会、実技指導、参加者交流等)、学習プログラムの活動の様子を動画配信するなど実施できるよう準備を進める。視察研修、成果報告についても同様に考える。

#### ◇ボッチャ大会(11月)

瀬戸ボッチャクラブが行う大会に、申請者を中心とした障害福祉事業所が参加し、対戦する。当該大会には、市内小・中・高等学校も参加するため、障害のない児童・生徒との交流も可能となる。従来の大会に障害者が参加することにより、障害のある人もない人も、多様性を認め合う新たな社会の創設や、卒業後も続く友好関係を築く機会を得ることが見込まれる。

また当日は、愛知県の特別支援学校出身でボッチャのパラリンピック選抜選手をゲストに招き、プレイを見せてもらったり、話を聞いたりすることも企画し、ボッチャの歴史や文化にも触れてもらえるようなプログラムとする。

#### ◇障害青年自身による成果報告(12月)

学習者である障害青年自身が学びを通して得られた成果を自らの言葉で発信し、他者からの評価を受けることでさらなる活動意欲の増進、自信の獲得、地域への障害者の生涯学習の啓発、地域への障害理解を深めることを目的とする。実施に当たっては以下のとおりとする。

- (1) 成果報告会 (公民館長、障害福祉事業所職員への説明、障害者本人による成果報告等)
- (2) 報告書の発行 (発行に当事者が携わり作成する)

本事業の成果については、事業毎にアンケートや聞き取り調査を実施し、半構造化方式による質的調査方法をもとに数値目標を設定し分析・検証を行い評価する。

・「福祉事業所への講習会」では、講習に参加した障害福祉事業所ではボッチャ大会に向け、障害者の選出に際して当事者本人の意向をどのように配慮したか、また、ボッチャ大会を通して本人の新たな趣味や日常生活の意欲にどうつながったか、今後、各事業所においてボッチャなどスポーツや文化・芸術、教養などの活動を取り入れることにどのような検討を行ったかなどについてアンケートや聞き取り調査を実施し、これらを数値目標化する。ここでは当事業が、障害者の人間的自立や社会参加・就労にどう作用したか、また、福祉事業所の活動にどのような影響を与えたかについて分析・検証し、具体的に評価する。

・「ボッチャ大会」では、参加した障害者、小・中・高校の児童生徒、事業所職員・学校教職員・地域住民など支援者それぞれに対して、アンケートや聞き取り調査を実施し、それぞれ数値化し具体的に評価する。ここでは、主に、障害のあるなしにかかわらず、年齢や立場の違いを超えて、どう楽しむことができたか、共に学び共に生きる共生社会の実現に向けての効果と課題について分析・検証を行う。

・「障害青年自身による成果報告」では、公民館長への成果報告を行った障害者本人に対して、また、成果報告を受けた公民館長を対象に障害者への理解がどう深まったか等について、それぞれアンケートと聞き取り調査を実施し、数値目標化し分析・検証を行い、具体的に評価する。

これらを通して、本事業が障害者の人間的自立や社会参加・就労にどう作用したか、また、障害のあるなしに関わらず、共に学び共に生きる共生社会の実現に向けてどのような効果をもたらしたかなど、本事業全体の成果と課題について評価する。

## 2. 連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築

### (1) 連携協議会の議題

連携協議会は年3回開催することとし、以下のように議題を設定した。

第1回 事業の趣旨と年間活動計画、自己紹介、事業日程、役割分担、視察日程など

第2回 ボッチャ大会準備会、視察研修の実施状況報告とボッチャ大会、成果報告会、に向けた課題

第3回 事業のまとめ、報告書の編集と執筆依頼、事業の実現可能性の再検討、来年度事業実施について

※新型コロナウイルス感染拡大防止策をとったうえで原則対面での開催とし、状況に応じてオンラインで行う。

### (2) 実施体制・連携

連携協議会委員のメンバーは、行政からは障害者の生涯学習に関係する4つの課と大学を含む地域の教育、福祉、医療などの民間団体の代表によって構成されています。本市には、これまで幼児期から学校卒業までの障害児の療育、保育、学校を一貫させて支援するために行政が連携し専門家を配置した「発達支援室」の取り組みがあり、また、公私の保育士や幼稚園教諭、小中学校、特別支援学校教員を対象に市と大学とが連携した「特別支援教育リーダー養成講座」

が開設されています。このように行政機関の連携や行政と民間団体との連携協働を進めてきた歴史があります。しかし、ここでは、乳幼児期から、小中学校までの関係止まりでした。

今回、障害者の生涯学習支援事業に取り組むことによって、障害者の学校卒業後に関わる行政内の横の連携をはじめ、公民館や自立支援委員会、障害福祉事業所など行政と民間団体との連携の広がりや協働の必要が出てきました。学校教育においても、当市には肢体不自由児の市立特別支援学校と知的障害児の県立特別支援学校がありますが、いずれも卒業後の支援は限られるとともに、市内の小中学校や地域との繋がりも弱かったと言えます。

連携協議会委員としてこの事業に関わることを通して行政と民間団体が、教育と福祉が、学校と福祉事業所が、よりいっそう縦横につながり、地域における障害者の生涯にわたる支援体制が構築されていくことが期待されます。

### (3) 事業の成果と発展

ボッチャ大会は、今回は中核的事業として位置付けました。特別支援学校（卒業生を含む）を含むコミュニティ・スクールを活性化させる新たな取り組みとして、特別支援学校（卒業生を含む）児童生徒と教職員、小中高の児童生徒と教職員、そして地域住民とが一緒に取り組むボッチャ大会を企画しました。共に取り組むなかで、お互いを理解し共生社会をつくっていく貴重な機会となると思います。

今後は、公民館や生涯学習センター等の社会教育施設における障害者青年学級等の実施や障害者対象の一般教養講座などの実施に向けて、どのような環境・指導者・支援者・広報の方法が必要かという視点で連携協議会委員に考えてもらいます。また、ボッチャ大会に参加した障害者青年たちからは、もっとどんなことをしてみたいか、誰と何をやりたいか、どんなことに困っているか、等できるだけ細かく意見を聞いて今後の事業に活かしていきます。

視察研修では、障害者の生涯学習を企画し実施することが求められる瀬戸市の公民館等社会教育施設で実施できるように、連携協議会委員のうち関係する担当部局の委員等で、町田市生涯学習センターを訪問し、他市での先進的な取り組みについて、事前情報から自分なりの考えをもって参加し、実際に見聞する中で、その考え方、方法、環境、成り立ちについて学び、今後、瀬戸市でそれをどう生かせるかについて意見を出し合い検討します。また、障害者生涯学習支援政策に位置づけられている「障害者の学校から社会への移行期の学び」の実際について、3年間にわたり文部科学省の委託事業を実施してきた見晴台学園を訪問します。以上の視察研修を通して、今後、委員が自らの職場や地域で、障害者生涯学習支援に反映させて関わっていくことが期待されます。

障害福祉事業所向け講習会では、今後、受講者たちが中核となって、障害福祉事業所にあっても福祉と教育を跨ぐ障害者の生涯学習支援に取り組むことが期待されます。

瀬戸市には受託先である特定非営利活動法人杏を含む 23 の福祉事業所がありますが、本事業を通して連携協議会が利用者の生涯学習へのニーズを汲み取り、文部科学省の特別支援教育の生涯学習化の理念を共有して学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要な力を生涯にわたって維持・開発・伸長するための本地域での課題や展望について考察していきます。



### 3. コーディネーター・指導者等の配置やボランティアの育成・活用等の検討

コーディネーター・指導者の配置は任意となっているので、これは置かない。一方で、本企画の実施にはボランティアの育成・活用等な必須であることから、以下はボランティアの育成・活用等に関するスケジュール、ならびに具体的な内容について記載したものである。

瀬戸特別支援学校が含まれる光陵中学校校区（原山小学校、萩山小学校、八幡小学校、光陵中学校、瀬戸特別支援学校）の小中特支協働型コミュニティ・スクール（学校運営協議会・地域学校協働本部）は、公民館、社会福祉協議会、自治会、近隣の大学や高等学校、特別支援学校関係者で組織されている。この組織に対し本委託事業への理解を求め、積極的に連携することにより、障害者の学校卒業後の生涯学習づくりが推進されると思われる。

ボッチャ大会、地域住民向けボッチャ講習会については、さくらんぼサポートステーション（瀬戸市立瀬戸特別支援学校 地域学校協働活動推進員）が、地域ボランティアの窓口となり、ボランティアの募集、育成等で連携することが期待される。

成果報告会には、さくらんぼサポートステーションや地域ボランティアにも参加を呼びかけ、今後のボランティア育成のための研修の機会とする。

4月	瀬戸特別支援学校が含まれる光陵中学校校区（原山小学校、萩山小学校、八幡小学校、光陵中学校、瀬戸特別支援学校）の小中特支協働型コミュニティ・スクール（学校運営協議会・地域学校協働本部）と連携して、地域住民向けボッチャ講習会、ボッチャ大会の周知。参加、運営、地域ボランティア募集についての準備 さくらんぼサポートステーションが窓口となり、地域のボランティアを募る 地域住民向けボッチャ講習会 ボランティアの募集 ボッチャ大会 ボランティアの参加 成果報告会 さくらんぼサポートステーションや地域ボランティアも参加
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	

（資料：コーディネーター・指導者等の配置やボランティアの育成・活用等のスケジュール）

### 4. 成果等の普及

成果等の普及について次のように設定した。

- (1) 成果報告会（12月 公民館長や障害福祉事業所職員へ本事業内容の説明及び障害者本人からの成果報告）
  - ①生涯学習の実施先である公民館長に対し、本委託事業の経緯や目的、将来展望を講義する。（全公民館長 14名参加）
  - ②障害者本人がボッチャ大会の感想等を発表する。
  - ③ボッチャ大会実施に関わった実施主体法人、瀬戸市、連携協議会委員、事業所職員、ボランティア等支援者、ボッチャ指導者、保護者等から本事業に参加した意見等を求め、次年度以

降の課題と展望を共有する。

(2) 報告書発行(2月)

本委託事業の目的や、ボッチャ大会の様子、参加した障害者本人の感想要望などを掲載した報告書(冊子・電子媒体)を発行する。報告書の配布を通して本委託事業と障害者の生涯学習について普及啓発をし、次年度も円滑に活動に取り組めるようにする。

(3) 広報や市ホームページへの掲載

3月号の広報に記事を掲載および市ホームページへも掲載する。全市民向けに普及啓発することができる。

(4) SNS等を活用した啓発

杏のHP、Facebook等での発信、市や連携団体のHP等に本事業のリンク先を掲載する。記事や映像の掲載が可能になり、より具体的な活動の様子を広範囲に啓発することができる。

(5) ラジオサンキュー「尾張東部放送」・ケーブルテレビ・新聞社の取材等

市民や連携団体以外への情報発信が可能となる。

5. 本実践研究事業の実施により得られることが見込まれる成果・効果

(自立や社会参加・就労等に関する具体的なエビデンスに基づく成果・効果、本委託事業終了後の成果の活用方針・手法等)

(1) 事業の実施により直接的に得たい成果／アウトプット目標

瀬戸ボッチャクラブ

・瀬戸ボッチャクラブの運営や活動に多くの地域住民を含めた社会資源が関わる。

ボッチャ大会やボッチャ講習会の開催

・障害者が学校卒業後も学ぶ場があること知る。

・障害者が学校卒業後も「学ぶことが自分を豊かにする」ことを感じ取り、学習の主体者として積極的に生きていく力の獲得につながる。

・障害福祉事業所の支援者が障害者の生涯学習について知り、積極的に関わろうとする。

・障害者自身が活躍できる場を設け、新たな趣味の獲得や、ボッチャ経験者の発掘・意欲や能力の向上等を期待する。

・瀬戸市内の障害福祉事業所の横のつながりができる。

・行政や公民館等社会教育施設の職員が、障害者の生涯学習について知り、生涯学習に障害者の視点を入れて考えることができる。

・障害者を含めた地域住民が本事業を通して、多様な人(同世代、異年齢、健常者、障害者等)とのつながりや学習活動を通して共生社会の活動に参画する。

・地域住民が障害者の生涯学習について知り、地域で支えていこうとする意欲を高める。

・障害当事者、地域住民、公民館等社会教育施設関係者へアンケートを実施し、効果の推移や変化が検証できるようにする。

(2) 事業の実施により終了後(中長期的)に得たい成果／アウトカム目標

・効果や課題を抽出・分析し、次期取り組みに活かす。

- ・障害当事者の意見や希望を考慮した事業展開を検討し、次期に繋げる。
- ・成果報告を含めた事業の周知を広域的に行い、連携・協働できる団体等を発掘する。
- ・連携協議会構成員とともに地域に向けて本事業の重要性を発信し、地域が主体となって取り組むことができる仕組みを創設する。

(3) 本委託事業終了後、事業実施により得られた成果をどのように活用することを検討しているのか。またその見通しについて、具体的に記載すること。

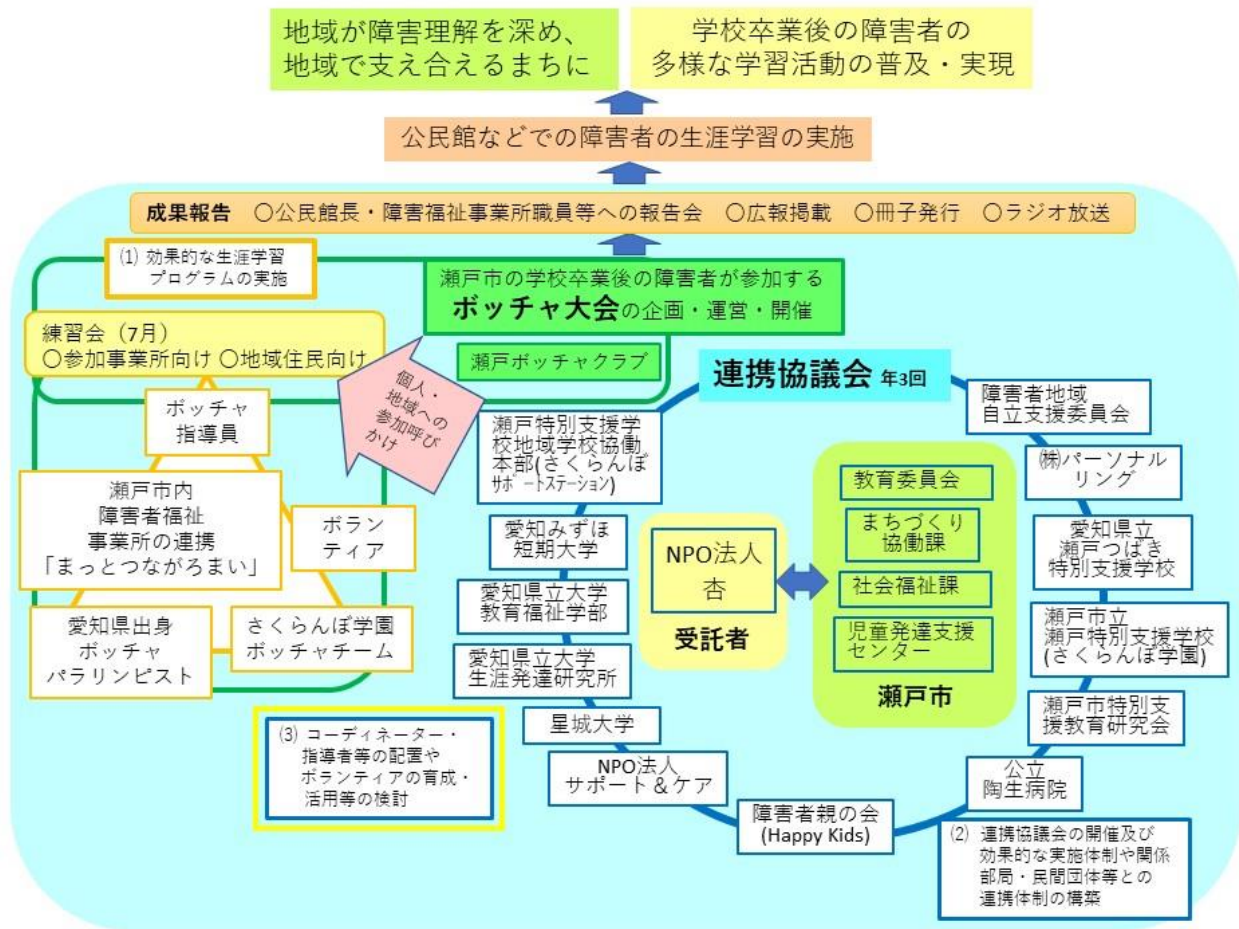
市と連携することで、今まで限定的であった障害福祉事業所、学校、公民館のつながりが強まり、また、本委託事業の広範囲にわたる普及啓発が期待できる。さらには連携協議会に様々な団体が携わることで、新たな分野での連携が可能となる。ここから得られる繋がりを活用し、各団体で行われる通年事業に、それぞれの視点を取り入れた事業の展開が期待できる。

現在、地域の公民館等では様々な生涯学習が実施されているが、障害者への視点が欠けている。本委託事業でまずはボッチャを普及することにより、各公民館がボッチャ大会へ参加する、あるいは公民館でボッチャ講座等を実施する、といった障害者が参加しやすい分野を事業に取り入れてもらうことを推進する。

ボッチャをきっかけとして公民館等への障害理解を深めることで、ボッチャに限らず障害者の視点に立った生涯学習の実施、障害者が参加しやすくなるような体制整備が図られるようになる。また、ボランティアの関わりの中から、地域団体、大学、企業なども含めた地域全体で障害者を支える仕組みづくりを検討していく。その中で、障害者本人が意見や希望を述べ、本人が望む分野の講座の開設、学びの場を創出することも検討していく。

そして、障害者にとって学校卒業後、企業・福祉事業所等と自宅の行き来だけでなく、地域に開かれた様々な居場所での学びが生活の一部となることを将来像とする。

【資料：企画提案書添付の事業全体像図】



## 2. 事業実施日程一覧

	連携協議会と視察研修	事業	事務局会議	成果報告等
6月	第1回連携協議会(6/10)		第1回事務局会議(6/17)	
7月		障害福祉事業所向けポッチャ講習会(7/17) 地域向けポッチャ講習会(7/24)	第2回事務局会議(7/12)	
8月			第3回事務局会議(8/18)	
9月	第2回連携協議会(9/24)		第4回事務局会議(9/14)	
10月	見晴台学園・見晴台学園 大学視察研修 (10/5, 12, 13)	ポッチャ大会(10/23)	第5回事務局会議 (10/11)	
11月	町田市生涯学習センター 視察研修(11/27～ 28, 12/4～5)		第6回事務局会議(11/1)	ラジオサンキュー「尾張 東部放送」での事業周 知・報告(11/22, 29)
12月			第7回事務局会議(12/6)	成果報告会(12/14)
1月			第8回事務局会議(1/11)	地域における障害者の生 涯学習プログラム開発コ ンファレンス in 東海・ 北陸コンファレンス (1/22)
2月	第3回連携協議会(2/24)		第9回事務局会議(2/7) 第10回臨時事務局会議 (2/14)	
3月			第11回事務局会議(3/4)	報告集発行

### 3. 連携協議会

#### 令和3年度 文部科学省実践研究委託事業 連携協議会委員一覧

氏名	所属・役職等	備考欄
稲垣 宏和	瀬戸市健康福祉部社会福祉課 課長	
犬飼 保夫	愛知県立瀬戸つばき特別支援学校 校長	
宇都宮 みのり	瀬戸市障害者地域自立支援委員会 委員長	愛知県立大学教育福祉学部 教授
小川 純子	星城大学 経営学部 特任教授	県立特別支援学校元校長
加藤 英子	公立陶生病院 小児科部長	
川上 雅也	NPO法人サポート&ケア 理事長	
此下 明雄	瀬戸市教育委員会 学校教育課 課長	
田中 良三	愛知みずほ短期大学特任教授・現代幼児教育学科学科長 愛知県立大学名誉教授 文部科学省有識者会議委員	全国障がい者生涯学習支 援研究会会長
中島 史恵	瀬戸市健康福祉部児童発達支援センター 長	
中島 宗仁	瀬戸市市長直轄組織まちづくり協働課 課長	
林 ともみ	株式会社パーソナルリング 取締役 MC &パーソナリティ	(副委員長)
福田 致代	Happy kids 代表	障害者親の会
藤井 奈保	瀬戸市特別支援教育研究会 会長	瀬戸市立幡山東小学校校 長
牧 治	瀬戸市立瀬戸特別支援学校 地域学校協 働本部長	
松川 博茂	瀬戸市立瀬戸特別支援学校 校長	
三山 岳	愛知県立大学 生涯発達研究所 所長	愛知県立大学教育福祉学 部 准教授
山本 理絵	愛知県立大学 教育福祉学部長	(委員長)

## 文部科学省委託事業・NPO 法人杏連携協議会 規約

### 第1条（名称）

この会は、文部科学省委託事業・NPO 法人杏連携協議会という。

### 第2条（目的）

この会は、文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業『地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進』」をするための趣旨に基づいて設置し、NPO 法人杏の委託事業を円滑に推進することを目的とする。

### 第3条（活動）

この会は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- ① 瀬戸市において、障害者の生涯学習について民間団体等と組織的に連携し、公民館等の社会教育施設をはじめ関係機関において、障害当事者のニーズや地域資源を踏まえた「生涯学習プログラム」を開発・実施し、その成果の普及・活用を目指す本事業全体にわたる進行管理を行う。
- ② 本事業において、障害者の自立や社会参加・就労等に関わる具体的なデータ・調査結果・事例等のエビデンスに基づく事業成果の分析・検証等を行い、成果報告書としてとりまとめる。
- ③ 効果的な検討に資する観点から、協議会の構成員は、先進的な優良事例を視察する。
- ④ 連携協議会を、年間3回程度開催する。

### 第4条（構成員）

- 1 本会は、委員と事務局員から構成する。
- 2 委員は、本事業に関係する、瀬戸市の関係部局、特別支援学校・大学等学校及び福祉・労働・医療団体等の関係者によって構成する。
- 3 事務局員は、NPO 法人杏の職員および本事業の関係者によって構成し、実務を担う。

### 第5条（財政）

委員会出席や視察研修参加等については、謝金及び交通費等を支払うものとする。

### 第6条（事務所）

会の事務所は、NPO 法人杏（〒489-0003 愛知県瀬戸市穴田町 541-1 TEL/FAX 0561-76-8004）に置く。

### 第7条（附則）

この規約は2021年6月10日より施行する。

文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業  
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

## 第1回連携協議会議事次第

令和3年6月10日(木)

13:30～15:30

\*オンライン(ZOOM)会議

### 1. 議事

- (1) 文部科学省の障害者生涯学習支援政策
- (2) 連携協議会規約
- (3) 連携協議会委員一覧
- (4) 事業計画
- (5) 連携協議会委員の役割
- (6) 今後の日程
- (7) その他

### 2. 配布資料

- |     |                     |
|-----|---------------------|
| 資料1 | 文部科学省の障害者生涯学習支援推進政策 |
| 資料2 | 連携協議会規約(案)          |
| 資料3 | 連携協議会員等一覧表          |
| 資料4 | 企画提案書(文部科学省採択)      |
| 資料5 | 連携協議会委員の役割          |
| 資料6 | 今後の日程               |



# 第1回 瀬戸市連携協議会 議事録

開催日時	2021年 6月10日(木) 13:30~15:30					
開催場所	オンライン開催(ZOOM会議)※一部対面 瀬戸市役所1階101会議室より配信					
出席者22名 (敬称略)	委員長	山本 理絵	副委員長	林 ともみ	委員	稲垣 宏和
	委員	犬飼 保夫	委員	小川 純子	委員	加藤 英子
	委員	川上 雅也	委員	此下 明雄	委員	田中 良三
	委員	中島 史恵	委員	中島 宗仁	委員	福田 致代
	委員	藤井 奈保	委員	牧 治	委員	松川 博茂
	事務局長	相馬 貴久	事務局次長	藪 一之	事務局員	川地 里香
	事務局員	池田 有希	事務局員	船坂 礼子	事務局員	加藤 由美子
	事務局員	藤本 竜弘				
欠席者2名	委員	宇都宮みのり	委員	三山 岳		
傍聴者等	無し					
開会時刻	13:30		閉会時刻	15:30		

## 議 事

○ 議題に先立ち、事務局において以下7点を進行した。

- ①オンライン開催の説明
- ②議事録作成を目的とした本会議の録画の承認
- ③本事業の概要説明
- ④本事業の受託者紹介、あいさつ
- ⑤本会議の委員長紹介、あいさつ
- ⑥本会議の出席者及び欠席者説明、出席委員の自己紹介

出席22名(委員15名/事務局7名)、欠席委員2名 (本会議関係者全24名)

⑦配布資料の確認

資料1 文部科学省の障害者生涯学習支援政策

資料2 連携協議会規約(案)

資料3 連携協議会会員等一覧表

資料4 文部科学省採択「企画書」

資料5 連携協議会委員の役割

資料6 今後の日程

その他 振込口座指定用紙



○議長選出

本会議の議長として、愛知県立大学教育福祉学部長の山本理絵氏が承認を受け、議事を進行した。

Ⅰ 報告事項

(1) 「文部科学省の障害者生涯学習支援政策と本事業」について

<田中委員> (資料 1 参照) 事業提案から採択に至るまでの経緯等が説明・報告された。

## 2 協議事項

### (2) 連携協議会規約について

<池田事務局員> (資料 2 参照) 規約全体の説明に加え、第3条を読み上げ、活動への理解を求めた。

### (3) 連携協議会委員一覧について

<池田事務局員>連携協議会委員の構成が説明され、承認を受けた。

### (4) 事業計画について

<川地事務局員> (資料 4 参照)本事業の目的と内容が説明され、承認を受けた。

### (5) 連携協議会委員の役割について

<田中委員>本事業における委員の役割について以下 4 点が説明され、理解を求めた。

(資料 4 より抜粋)

①委員の皆さんは、この事業に出来る限り、役割を持ってください。

②委員の皆さんには、この事業に関わる課題について、それぞれの持ち場で、何ができるかについて検討・話し合いを行っていただく。

・社会教育施設における新たな「生涯学習プログラム」開発による学習支援について

・特別支援学校の同窓会等の学習支援について

・大学におけるオープンカレッジや公開講座、「履修証明制度」の活用等について

・企業による学習支援について

・社会福祉法人・NPO 法人・親の会等による学習支援について

・その他、地域の団体・個人による学習支援などについて

③各事業に可能な限りの参加をお願いする。

④連携協議会は年3回開催し、謝金は 1 回につき 6,500 円と所定の交通費とする。

### (6) 今後の日程について

<池田事務局員・田中委員>現状で決まっている以下の日程が説明され、承認を受けた。

9 月 第 2 回連携協議会

2 月 第 3 回連携協議会

以上、連携協議会は全 3 回実施

7 月 17 日(土) 障害福祉事業所向けボッチャ講習会 八幡公民館

7 月 24 日(土) 地域向けボッチャ講習会 八幡公民館

10 月 23 日(土) ボッチャ大会 萩山小学校体育館(予定)

8 月 視察研修①

10 月 視察研修②

12 月 成果報告会 (公民館長や障害福祉事業所職員への説明、障害者本人による成果報告など)

令和 4 年 1 月 22 日(土) 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール

令和 3 年度 文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」委託事業

「地域における障害者の生涯学習プログラム開発コンファレンス in 東海・北陸」を予定

以上

文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業  
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

## 第2回連携協議会議事次第

令和3年9月24日(金)

13:30～15:30

\* オンライン(ZOOM)開催

### 1. 議事

- (1) ボッチャ講習会の報告
- (2) ボッチャ大会(10/23)について
- (3) 視察研修
- (4) 東海・北陸ブロックコンファレンス
- (5) 今後の日程
- (6) その他

### 2. 配布資料

- |     |              |
|-----|--------------|
| 資料1 | ボッチャ講習会実績報告書 |
| 資料2 | ボッチャ大会案内文    |
| 資料3 | 視察研修日程       |
| 資料4 | コンファレンス      |
| 資料5 | 公民館長会議資料     |
| 資料6 | 令和3年度スケジュール  |
| 資料7 | 第1回連携協議会議事録  |

## 第 2 回 瀬 戸 市 連 携 協 議 会 議 事 録

開催日時	2021年 9 月 24 日(金) 13:30~15:30		
開催場所	オンライン開催(ZOOM会議) ※一部対面 瀬戸市役所 3 階 301 会議室より配信		
出席者21名 (敬称略)	委員長 山本 理絵	副委員長 林 ともみ	委員 稲垣 宏和
	委員 三山 岳	委員 小川 純子	委員 田中 良三
	委員 川上 雅也	委員 此下 明雄	委員 福田 致代
	委員 中島 史恵	委員 中島 宗仁	委員 松川 博茂
	委員 藤井 奈保	委員 牧 治	
	事務局長 相馬 貴久	事務局次長 藪 一之	事務局員 川地 里香
	事務局員 池田 有希	事務局員 船坂 礼子	事務局員 加藤 由美子
事務局員 藤本 竜弘			
欠席者3名	委員 犬飼 保夫	委員 宇都宮みのり	委員 加藤 英子
傍聴者等	無し		
開会時刻	13:30	閉会時刻	15:30

### 議 事

○議題に先立ち、事務局において以下4点を進行した。

- ①オンライン開催の説明
- ②議事録作成を目的とした本会議の録画の承認
- ③本会議の出席者及び欠席者説明、出席委員の自己紹介  
出席21名(委員14名/事務局7名)、欠席委員3名 (本会議関係者全24名)
- ④配布資料の確認

- 資料1 ボッチャ講習会実績報告書
- 資料2 ボッチャ大会案内文
- 資料3 視察研修日程
- 資料4 コンファレンス
- 資料5 公民館長会議資料
- 資料6 令和3年度スケジュール
- 資料7 第1回連携協議会議事録



○委員長あいさつ

○本会議の議長である、愛知県立大学教育福祉学部長の山本理絵氏が議事を進行した。

#### 1 議事

(1) ボッチャ講習会の報告

<川地事務局員> (資料1 参照)

7月17日土曜日に八幡公民館で実施。対象者は障害福祉事業所の利用者の方及び事業所の職員の方で、参加人数は福祉事業所利用者が18名、事業所の職員が7名、合計25名の方が参加。

<動画視聴> (事務局長 相馬より説明)

全員がスポーツをやりたいという意識が高く、ボッチャ大会を楽しみにしている様子が報告された。

<川地事務局員>(資料1参照)

次の週にも地域向けに実施した内容を説明。翌週24日土曜日に同じく八幡公民館で実施。対象は公民館の職員及び地域の障害者の方で、実際に参加された方は公民館の職員が11名、特別支援級卒業生が6名、さくらんぼステーションの地域コーディネーターが2名、合計19名が参加。

<川地事務局員>(アンケート結果の報告:資料1裏面参照)

アンケート結果から、地域と障害者のつながりを強めていく必要性や重要性がわかる、と報告された。

(2) ボッチャ大会(10/23)について(資料2-1、資料2-2参照)

<池田事務局員>概要や、現在30名の申し込みがあることが報告された。

ボッチャ大会の運営方法や道具の扱い等について議論され、委員も大会に参加したいという声もあがり、大会への関心が深いことを理解しあった。

(3) 視察研修(資料3-1、資料3-2参照)

<田中委員>見晴台学園と見晴台学園大学で実施される視察研修会概要が説明され、承認を受けた。

(4) コンファレンス(資料4参照)

<田中委員>東海・北陸ブロックコンファレンスの概要が説明された。

事例報告・検討では、名古屋大学の辻裕氏と日本福祉大学の小林洋司氏が講演され、記念公演のゲストとして金澤翔子氏が招かれる旨が報告された。

(5) 今後の日程

<川地事務局員>(資料6参照)

10月・視察研修①(10/5・10/12・10/13@見晴台学園・見晴台学園大学)

・ボッチャ大会 10/23(土)7:30~12:00@萩山小学校体育館

11月・視察研修②(町田市生涯学習センター・東京都町田市)

12月・成果報告会(12/13か14 公民館長や障害福祉事業所職員への説明、障害者本人による成果報告など)

1月・地域における障害者の生涯学習プログラム開発コンファレンスin 東海・北陸コンファレンス  
(1/22(土)10:00~16:30@文化フォーラム春日井)

※午前:成果報告会、午後:記念公演等

2月・第3回連携協議会

資料5について…公民館長の会議があり、この資料を会議で配布した。

資料7について…冊子作成を作成し、この議事録も掲載する予定。

修正、訂正等の確認をお願いしたい。

<山本委員長>

今日の議題については、原案通り進めていただくことでお願いします。

以上

文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業  
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

### 第3回連携協議会議事次第

令和4年2月24日(木)

13:30～15:30

場所:瀬戸市デジタルリサーチパークセンター

マルチメディア電子会議室

※ZOOM併用

#### 1. 議事

- (1) 報告事項(ポッチャ大会・成果報告会・コンファレンス・視察研修)
- (2) 報告集の編集状況について
- (3) 次年度にむけて
- (4) その他

#### 2. 配布資料

- |     |             |
|-----|-------------|
| 資料1 | 成果報告会配布資料   |
| 資料2 | コンファレンス資料   |
| 資料3 | 視察研修        |
| 資料4 | 報告集(案)      |
| 資料5 | 次年度の事業案     |
| 資料6 | 第2回連携協議会議事録 |

## 第 3 回 瀬 戸 市 連 携 協 議 会 議 事 録

開催日時	2022 年 2 月 25 日(木) 13:30~15:30		
開催場所	ハイブリッド開催 ※一部オンライン 瀬戸市デジタルリサーチパークセンターより配信		
出席者 12 名 (敬称略)	委員長 山本 理絵	副委員長 林 ともみ	委 員 小川 純子
	委 員 藤井 奈保	委 員 加藤 英子	委 員 福田 致代
	委 員 田中 良三	委 員 中島 史恵	事務局員 川地 里香
	事務局員 池田 有希	事務局員 船坂 礼子	事務局員 加藤 由美子
オンライン出席 3 名	委 員 宇都宮みのり	委 員 牧 治	事務局員 藤本 竜弘
欠席者 9 名	委 員 犬飼 保夫	委 員 稲垣 宏和	委 員 三山 岳
	委 員 川上 雅也	委 員 此下 明雄	委 員 松川 博茂
	委 員 中島 宗仁	事務局長 相馬 貴久	事務局次長 藪 一之
傍聴者等	地域振興部スポーツ課 田口 浩一	まちづくり協働課 川合 佐	
開会時刻	13:30	閉会時刻	15:30
議 事			

○議題に先立ち、事務局において以下4点を進行した。

- ①会場とオンラインとのハイブリッド開催の説明
- ②議事録作成を目的とした本会議の録画の承認
- ③本会議の出席者及び欠席者説明

出席 12 名(委員 8 名/事務局 4 名) 欠席委員 7 名/欠席事務局 2 名 傍聴者 2 名  
(本会議関係者全 24 名)

- ④配布資料の確認

- 資料1 成果報告会配布資料
- 資料2 コンファレンス資料
- 資料3 視察研修報告会
- 資料4 報告集(案)
- 資料5 成果概要様式
- 資料6 次年度の事業案
- 資料7 第 2 回連携協議会議事録



○委員長あいさつ

○本会議の議長である、愛知県立大学教育福祉学部長の山本理絵氏が議事を進行した。

Ⅰ 議事

(1) 報告事項

<池田事務局員> ポッチャ大会について

・7月17日障害福祉事業所向け講習会、7月24日地域向け講習会

・10月23日萩山小学校体育館にてボッチャ大会開催

○動画視聴（事務局員 池田より説明）

・連携・協働できる団体等を発掘したり、連携協議会委員とともに地域に向けて本事業の重要性を発信したり、地域が主体となって取り組むことができる仕組み作りを進めることについて報告され、各委員から感想が述べられた。

<川地事務局員>(資料1参照)成果報告会について

・12月14日デジタルリサーチパークセンターにてハイブリッド開催

・障害理解の促進、実践者同士の学び合い、文化・スポーツ・学びの場の充実、瀬戸市における障害者生涯学習プログラムの開発と推進を目標として、成果報告会を実施したことが報告され、各委員から感想が述べられた。

<池田事務局員>(資料2参照)コンファレンスについて

・1月22日文化フォーラム春日井にて、NPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR、春日井市、春日井市教育委員会、春日井市社会福祉協議会、文部科学省の主催で、「地域における障害者の生涯学習プログラム開発コンファレンス in 東海・北陸」が実施された。

・瀬戸市の取り組み、春日井市の取り組み、視察研修会が報告され、記念公演として文部科学省スペシャル大使の書道家である金澤翔子さんの揮毫が披露されたことが報告され、田中委員から全体を通した補足説明があった。



<池田事務局員>(資料3参照)視察研修報告について

・視察研修に参加した各委員から、視察先の様子や感想等が報告された。

<川地事務局員>(資料4参照)報告集(案)について

・報告集の作成にあたり、内容が報告された。  
・瀬戸市ホームページ等SNSで紹介されていることが報告された。

<川地事務局員>(資料5参照)成果概要様式について

・成果概要様式について説明がされた。

<川地事務局員>(資料6参照)次年度の事業案について

・令和4年度年間スケジュール(案)や、運営方法等について説明がされた。

<川地事務局員>(資料6参照)次年度の事業案について

・ボッチャ大会の運営について説明がされた。

・より多くの関係者の理解を得るための講座の企画について提案され承認を受けた。

<川地事務局員>(資料7参照)第2回連携協議会議事録について

・議事録の内容について説明がされた。

<山本委員長>

・委員に対し、年間通した活動へのお礼と、今後の事業への協力についてお話があった。

以上



#### 4. 学習プログラムの開発

- I ボッチャ大会を通しての学びの場作り
- II 視察研修
- III 成果報告会
- IV コンファレンス





校生や卒業生の自立と社会参加の場として、また生涯に渡り、ボッチャを通して交流を深められるよう、瀬戸市内の小学校、中学校、高等学校や地域の協力を得て活動している。ここでは、毎年「ボッチャ大会」が行われている。今回、本事業で新たに、「ボッチャ大会」に、学校卒業後の障害のある方が広く参加することや、大会運営等に様々な立場の人が関わることができるよう計画を立てた。

ただし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で、大人数が集まるのが難しいことから、人数を絞らざるを得なかった。そこで、3つの障害福祉事業所の利用者、障害者親の会に所属する学校卒業後の障害のある方数名にボッチャに親しんでもらえるよう計画を立てた。また、生涯学習を担う地域の公民館等に、障害のある方やボッチャについて、大会の運営方法等を知ってもらうために関わってもらうことにした。こちらについても今年度は、瀬戸特別支援学校がある菱野団地（光陵中学校ブロック）の3つの公民館に限定した。さらに、今年度からスタートした瀬戸特別支援学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会・地域学校協働本部）と連携して、この取り組みの周知、参加、運営、地域ボランティアの募集をしてもらえるよう計画した。地域ボランティアの募集については、今年度は人数を限定したため行わなかったが、今後につながる関わりをもつことができた。

#### ◇障害福祉事業所向けボッチャ講習会、地域向けボッチャ講習会◇

ボッチャ大会に参加するにあたり、障害福祉事業所においてもボッチャを普及する必要があることから、事前学習として愛知ボッチャ協会から講師を招き、事業所の支援者も含めた「ボッチャ講習会」を7月に開催した。やむを得ず、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内の3事業所の当事者18名と事業所職員7名の合計25名の参加となった。

また、これとは別日程で本事業とボッチャや大会について知ってもらうことをねらいに、地域向けボッチャ講習会を開催した。

今年は、多くの方に参加してもらうことが難しかったため、一般には募集せず、障害者親の会等に所属する学校卒業後の障害のある方6名、3つの公民館の職員11名、瀬戸特別支援学校コミュニティ・スクールの地域コーディネーター2名に参加してもらった。こちらにも愛知ボッチャ協会の講師を招いて、実際にボッチャをしながら、コートの作り方やルールを覚えてもらうなど、ボッチャについて障害のある方とない方が一緒に学んだ。

それぞれのボッチャ講習会においては、アンケートを実施し、それぞれの立場における考えを把握し、今後の取り組みに活かすことができるようにした。

#### ◇ボッチャ大会◇

上記で述べたとおり、「瀬戸ボッチャクラブ」が主催でボッチャ大会が毎年行われている。今年度は、共催として本事業が関わり、10月23日（土）に萩山小学校体育館で行われた。コロナ禍での開催となり、瀬戸特別支援学校松川校長のリーダーシップのもと、工夫を凝らし、オンラインも取り入れたハイブリッド方式で行った。参加チームは、瀬戸特別支援学校（卒業生含む）から2チーム12名、瀬戸北総合高等学校から1チーム4名、受託先である障害福祉事業所



NPO 法人杏から1チーム4名、障害福祉事業所らいむ畑から1チーム4名、障害福祉事業所ジョブスタイルから2チーム8名、障害者親の会 Happy Kids から1チーム3名の合計8チーム35名だった。

今回、新しく障害福祉事業所や親の会の障害当事者が参加した。7月の講習会後に、それぞれの事業所の活動として、ボッチャを楽しみながら本番に向けて練習に励んだようだ。

また、3つの公民館から12名、大会運営の手伝いをお願いした。コート補助係として、対戦表・得点板表示・ボールの回収・結果表記入・試合間のコートのモップがけ、ボールの消毒の補助などをしていただいた。ほとんどの方が、今まで障害のある方と関わる機会がなく、今回、自然に障害のある人と関わるができる良い機会になった。また、障害者の生涯学習について考えていただく、きっかけになった。

他にも、瀬戸特別支援学校コミュニティ・スクールの地域コーディネーターも受付業務を行うなど運営に携わり、今後の本事業の取り組みについて地域コーディネーターとして、また、保護者として考えていただくことができた。

優勝したチームは、受託先である NPO 法人杏のチームであった。決勝は、唯一の健常者チームである瀬戸北総合高等学校チームとの戦い。手に汗にぎる熱い戦いが繰り広げられた。大会の途中には瀬戸市長の応援も加わり、運営も含めた参加者みんなが、ボッチャの楽しさを存分に味わうことができ、心が温まる大会になった。

### ◇成果報告会◇

瀬戸市の全公民館、学校卒業後の全障害福祉事業所、また、連携協議会委員等、障害当事者も含めて本事業に関わってくださった方等を対象に、今年度の本事業の「成果報告会」を12月14日(火)に瀬戸市デジタルリサーチパークセンターとオンラインのハイブリッド方式で開催した。参加人数は合計29名と少人数ではあったが充実した会となった。プログラムは、以下のとおりである。

「ボッチャ大会」に参加した学校卒業後の障害者が、大会について語る場面も設定した。優勝してうれしかったこと、大会に向けてみんなで練習して楽しかったこと、ボッチャが好きになったことなどが語られた。また、休みの日にいろんな人と関わりたい、ボッチャの他に、ダンスがやりたい、歌が好きなのでみんなと歌いたいと、好きな曲を歌いながら教えてくれた方もいた。

障害福祉事業所の職員からは、「大会後も「また、ボッ



公民館職員による得点板記入



決勝  
高校生チーム 対 障害福祉事業所チーム



決勝後の腕タッチ

### 主なプログラム

13:30	開会のあいさつ
13:40	学習プログラム成果報告 Ⅰ 「ボッチャ」を通しての学びの場づくり2021 ・事業説明と経過報告 ・ボッチャ大会に参加して ・ボッチャ大会参加がもたらしたもの Ⅱ 「障がい者の青年学級」による学びの場づくり 視察研修報告
15:00	講演「障がい者が学び続けるということ～生涯学習を権利として～」 田中良三(愛知みずほ短期大学特任教授・愛知県立大学名誉教授)

チャをやりたいです」と言う声が多く、今後もボッチャの取り組みを続けていきたい」「一般の高校生の方と試合をしてみて、力の差はありましたが、このように対等にスポーツができるのはボッチャならではの、良い機会だと思いました」「大会の流れがスムーズで利用者さんに対してとても配慮がなされていると感じました」「以前より団結力が出てきた。会話をしなかった利用者同士でも相談しあうなど、以前よりも会話が増えた」「今までなかなか皆とコミュニケーションが取れなかった方が、皆と仲良く話ができ、施設の雰囲気が変わった気がします」などの報告があった。他にも視察研修の報告や講演など、様々なプログラムを用意した。成果報告会の参加者からは、公民館でボッチャを買って、ボッチャを公民館事業に取り入れたいと思っているが、どのように進めれば良いか、という質問も寄せられ、本事業についての周知だけでなく、それぞれの立場で何ができるのか考えていただくきっかけとなる会になった。

### ◇アンケート結果から◇

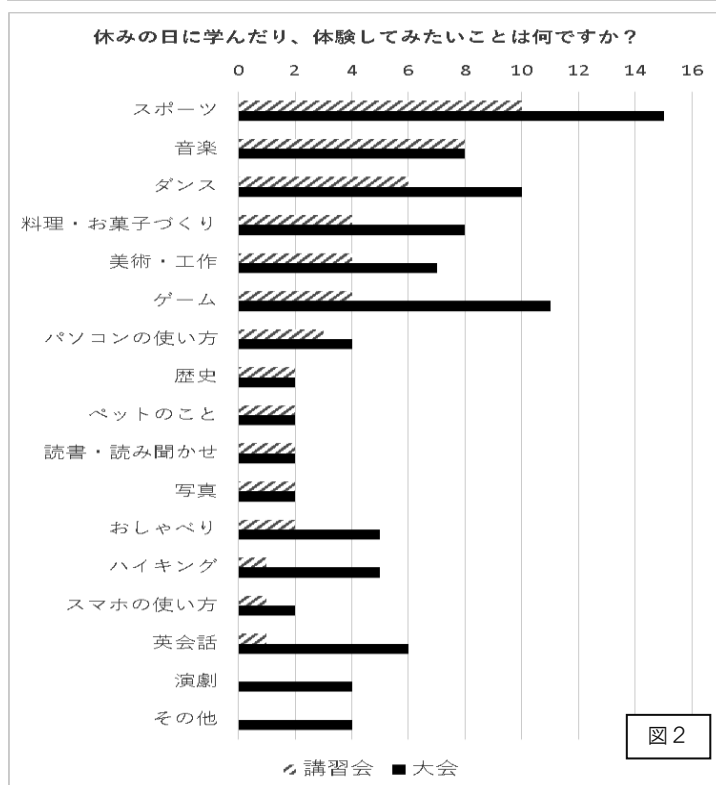
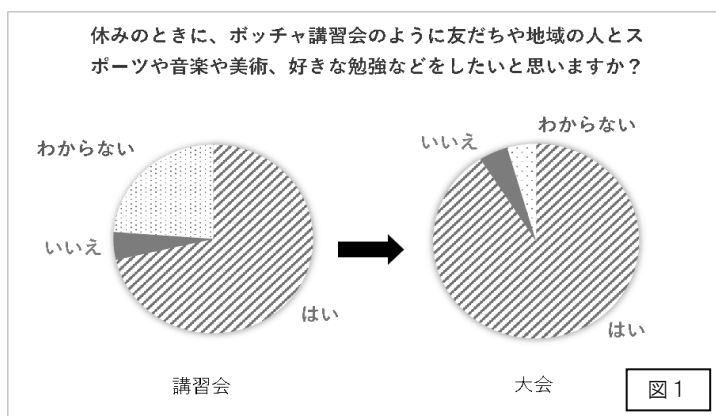
ボッチャ講習会とボッチャ大会でアンケートを実施した。主な結果は以下のとおりである。

#### <障害者本人>

障害者本人向けのアンケートでは、『休みの時にボッチャ講習会のように友だちや地域の人とスポーツや音楽、好きな勉強をしたいと思いますか?』という問いに対し、**図1**にあるように、講習会では21人中15人が、ボッチャ大会では22人中20人と、ほとんどの方が「はい」と答えた。また、ボッチャ大会後では、「はい」と答える人が増えた。多くの障害のある方が友だちや地域の人と好きな勉強をしたいと考えていることが分かった。

また、『休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか?』という問いに対しては、**図2**にあるように、スポーツが一番多く、ゲームやダンス、音楽、料理・お菓子づくりなどもニーズが高いことが分かった。

ボッチャ大会後の感想の自由記述では、「交流できて楽しかった」「休日にあまり家から出ることがないから外出できて嬉しかった」「楽しくボッチャをすることができました。またやってみたいです」「優勝したいです」等があげられた。ボッチャをとおして、様々な人と関わることやボッ



チャに対しての楽しさを味わい、次への意欲につながっていることが分かった。

瀬戸特別支援学校の生徒の様子から、「学年が異なると会う機会が少ないため、先輩や後輩に久しぶりに会えて嬉しそうでした。また、卒業生にも会え、刺激を受けたようでした」「卒業後の進路のことなどを聞ける良い機会だと思いました」との意見があり、数年後や学校卒業後の自分の姿を想像し、将来について考えるきっかけになったようである。

#### <障害福祉事業所等支援者>

障害福祉事業所等支援者向けのアンケートでは、『ボッチャ大会に向けて利用者の方やご本人に変化はありましたか?』という問いに対して、10人中8人が「あった」（のこり2人は「分からない」と回答）と答えた。「ご本人がボッチャの話題を出したり、（話題を出さない方も）「大会頑張ろうね」と伝えると意欲的な表情が見られたりした」「練習に積極的に参加される方ばかりでした。ボッチャが楽しいということが表情などで分かりました」との回答があり、ボッチャ大会を楽しみにしていたことや仕事への意欲につながっていたことが分かる。

『生涯学習事業に携わりたいですか?』という問いに対して、9人中7人が「はい」（のこり2人は「どちらとも言えない」と回答）と答えた。「学校卒業後は地域で活動するところがなかった。自分の子どもにとっても生涯学習に参加することは将来地域での居場所になるかもしれないから」「障がい者の方の生きがいのお手伝いが少しでもできたら嬉しいです」「どなたも生き生きとした生活を送られるために、社会の中でいろいろな方がおられることをお互い知れるように」と前向きな意見が得られた。

ボッチャ大会に対しては、「ボッチャは誰にでもできるスポーツだと改めて思いました。瀬戸でもっと輪が広がるとよいと思います。（各公民館で開催するとか）」「利用者の生き活きとした姿を久しぶりに見させて頂いた気がします」「コロナの関係で直接応援ができなかったことはとても残念ではありますが、リモートで様子がみえていたのはとてもよかったなと思いました」などの感想がありました。今後について、「事業所においても、定期的な取り組みとして取り組んでいきたい。今回の大会参加で利用者の皆さんが継続していきたくて思ってみるのが感じられました。事業所職員も審判講習への参加など取り組んでいきます」「ボッチャの審判ができるように講習を希望」「どんなことができたらいいか本人たちに聞く」「地域の人たちと障害のある人たちとの関わりが深められるように声かけをし、橋渡しをする」など、今後の障害者の生涯学習推進に向けてご自身の立場でできることを考えていただくことができた。

#### <公民館>

公民館向けのアンケートでは、ボッチャ大会に対する自由記述では、「参加された選手の競技に対する真っ直ぐな思いが感じられ、競技への集中力が高いと思った。身体的な差はあるかもしれないが、健常者以上と感じる点も多く感じた」「ボッチャ競技を行っている障害者の頭脳プレーに感動的なものを感じた」「障害はあっても、白いボールに近づけようとする思いがひしひしと伝わってきてとても感動しました」「とても面白かったです。夢中になり力が入りました。ますますボッチャが好きになりました。大会に参加でき嬉しかったです。準備等大変だったと思いますが、ぜひこれからもこの大会を続けてください」との感想が寄せられた。『障害者の方と地域の方との結びつきを深めるためには、地域でどのようなことを行うと良いと思いますか?』の問いに対しては半数

以上が「障害者の方と地域の方が交流できる場を設ける」という回答を選んだ。具体的な案として、「施設を改良して障害者の方にも気楽に使用できると良いです」「交流の場をもっと多くしていく」他、祭りでの作品展の作品展示、防災訓練、イベントへの参加があげられた。公民館としては、「地域との交流を深めるため定期的な事業を企画する」「いろいろな行事の中で一緒にできる事を考えて実施する。小学生、老人クラブとも交えて遊びながら学ぶ」「公民館フェスタでサークル発表、展示会、模擬店などを行っていますので、障害福祉の方々にも見て参加して頂き、交流の場ができると思います」などの具体的な意見があげられた。

一方で、『障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？』という問いに対して、11人中、「はい」と答えた人が2人、「いいえ」と答えた人が2人、「どちらとも言えない」と答えた人が7人であった。その理由として、「障害者の方々とのつきあい方に不安がある」「携わりたいという気持ちがあっても中途半端ではできないと思う」「お手伝いはしたいと思う。何をしたいかがわからない」との回答があげられた。これについては、公民館にどう関わってもらえるのか、公民館でできることはどういうことなのか等、しっかりと意見交換し、一緒に考えていく必要がある。また、連携・協働する団体等の関わりも考えられる。まずは、障害者について知ってもらうことから始めていかなければならないと考える。

#### ◇これからについて◇

今後は、アンケート結果や連携協議会委員や関わってくださった方の意見を元に、効果や課題を抽出・分析し、次期取り組みに活かしていきたいと考えている。特に、障害当事者の意見や希望を考慮した事業を目指す。そのために、連携・協働できる団体等を発掘したり、連携協議会委員とともに地域に向けて本事業の重要性を発信し、地域が主体となって取り組むことができる仕組みを作ったりしていきたい。連携協議会に様々な団



体が携わっていることから、新たな分野での連携が可能となった。ここから得られる繋がりを活用し、各団体で行われる通年事業に、それぞれの視点を取り入れた事業の展開を期待する。

また、現在、地域の公民館等では様々な生涯学習が実施されているが、障害者への視点が欠けている。本事業でまずはボッチャを普及することにより、各公民館がボッチャ大会へ参加する、あるいは公民館でボッチャ講座等を実施する、また、ボッチャに限らず障害者の視点に立った生涯学習を実施する、障害者が参加しやすくなるような体制整備が図られるよう推進していきたいと考えている。

さらに、地域団体、大学、企業なども含めた地域全体で障害者を支える仕組みづくりを推進し、その中で、障害者本人が意見や希望を述べ、本人が望む分野の講座の開設、学びの場を創出することも検討していきたい。

そして、障害者にとって学校卒業後、企業・福祉事業所等と自宅の行き来だけでなく、地域に開かれた様々な居場所での学びが生活の一部となることを将来像とし、共に学び、生きる共生社会の実現を目指す。



## アンケート結果

### 1 ボッチャ講習会にて

#### ボッチャ講習会アンケート結果（公民館）

R3.7.24

所属

萩山	4
原山	2
八幡	5

ボッチャを知っていましたか？

はい	6
いいえ	3
名前は聞いたことがあった	2

今までにボッチャをしたことはありますか？

はじめて	7
1度だけ	2
2, 3回	0
それ以上	2

講習会はどうでしたか？

わかりやすかった	8
ややわかりやすかった	3
どちらとも言えない	0
ややわかりにくかった	0
わかりにくかった	0

今日の講習会の改善すべき点などをご記入ください。

- ・一連の説明を最後まで行ってから質問を受けないと話が理解しにくい。
- ・説明がもう少し欲しい。
- ・公民館行事であるレクリエーションのレベルでのルールを進めてもらったら分かりやすい。上級者向きでは奥が深く分かりにくい。

文部科学省が「障害者の生涯学習事業」を推進し始めたことを知っていましたか？

はい	3
いいえ	8

公民館の職員として、障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？(その理由は)

はい	4
(その理由) 同じ地域にさくらんぼ学園がある事もあり、地域としてできる事があれば。	
いいえ	1
どちらとも言えない	6

公民館の生涯学習事業に障害者の視点を取り入れたことはありますか？

はい	0
いいえ	10

市内の障害福祉事業所を知っていますか？

はい	4
いいえ	7

公民館の事業やイベントに障害福祉事業所が参加したことはありますか？

はい	1	成人式
いいえ	8	
わからない	2	

自由記述

- ・ボッチャという言葉が知らなかったため、少し不安をもって参加しましたが、きっと同様の方々が多いと思われます。もっと他の意味合いで宣伝というかもっと知ってもらえる事では。
- ・ボッチャの事を初めて知り、色々な細かいルールがある事も分かり、楽しくやらせていただきました。
- ・実際にプレーすることでルールが理解しやすい面があるが、細かいルールまでは難しいものだと感じた。
- ・公民館として障害者を含めた活動としては考えてなかった。今後の課題か？

ボッチャ講習会アンケート（障害者本人）

R3.7.17

所属

杏	6
ジョブスタイル	9
らいむ畑	3
卒業生	5

今までにボッチャをしたことはありますか？

はじめて	13
1度だけ	3
2, 3回	0
何回もある	4

ボッチャを体験してどうでしたか？

楽しかった	17
むずかしかった	3
またやりたい	7
もうやりたくない	0
その他	0

どんなところが楽しかったですか？

ボールを投げるところ	13
勝ったり負けたりするところ	5
チームの人と一緒にやるところ	5
ルールや歴史を教えてもらったこと	2
その他	0

10月にポッチャ大会があります。参加したいと思えますか？

はい	20
いいえ	0
わからない	3

仕事や事業所が休みのときに、ポッチャ講習会のように友だちや地域の人とスポーツや音楽や美術、好きな勉強などをしたいと思えますか？

はい	15
いいえ	1
わからない	5

今までに公民館や地域交流センターを利用したことはありますか？

ある	14
ない	7
わからない	1

休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか？

スポーツ	10
音楽	8
ダンス	6
料理・お菓子づくり	4
美術・工作	4
ゲーム	4
パソコンの使い方	3
歴史	2
ペットのこと	2
読書・読み聞かせ	2
写真	2
おしゃべり	2
ハイキング	1
スマホの使い方	1
英会話	1
演劇	0
その他	0

どういう人と一緒に学んだり体験したいですか？

障害のある仲間	8
各分野の専門家	4
ボランティア(一般)	4
ボランティア(大学生)	4
その他	0

ボッチャ講習会アンケート結果（障害福祉事業所職員）

R3.7.17

所属

杏	1
ジョブスタイル	2
らいむ	3

今までにボッチャをしたことはありますか？

はじめて	4
一度だけ	0
2,3回	0
何回もある	2

利用者の方にとってわかりやすい講習会でしたか？

わかりやすかった	4
ややわかりやすかった	0
どちらとも言えない	2
ややわかりにくかった	0
わかりにくかった	0

今回の講習会の改善すべき点や配慮が足りなかった点など

- ・特にありませんでした。
- ・わかりやすくまとめていた為、特になし。
- ・講習会解りやすくとても勉強になりました。ポッチャ体験は皆が楽しめるように進行してくれたので皆笑顔でした。
- ・利用者の方にわかりやすい話し方、見せ方を配慮してくださっていたと思います。障害の程度に応じてどれくらい柔軟に対応しているのか（ポッチャのルールをどれくらい厳密に守るか等）声掛けや手を添える等の支援、ラインを踏んでしまう等はあるかな…？ガイドラインがあるといいかと思いました。
- ・知的障害者の重度の方への対応がもう少しあってもよかったと思います。

文科省が「障害者の生涯学習事業」を推進し始めたことを知っていましたか？

はい	2
いいえ	4
わからない	0

支援者として、障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？（その理由は？）

はい	4
(その理由) ・余暇等で皆様がどう過ごすかの一つの活動ができる場が増えることは良いと思うため。 ・どんな方も余暇活動や障害を通じて成長していくのは充実した生活に必要なと思うので。	
いいえ	1
どちらとも言えない	1



公民館などで生涯学習が行われているのを知っていますか？

はい	1
いいえ	5
わからない	0

公民館などで行われる生涯学習に求めるものは何ですか？

障害者のニーズにあった学習内容	4
チラシ配布先の拡充など周知啓発	1
障害に配慮された体制	4
地域の障害への理解	5
その他	1
・ 障害のある人とない人共にする活動	

自事業所での活動など、公民館と連携して行いたいと思いますか？

思う	4
思わない	0
わからない	2
すでに行っている	0

ポッチャ講習会アンケート結果（地域コーディネーター）

R3.7.24

ポッチャを知っていましたか？

はい	2
いいえ	0
名前は聞いたことがあった	0

今までにポッチャをしたことはありますか？

はじめて	0
一度だけ	0
2,3回	0
2,3回以上	2

講習会はどうでしたか？

わかりやすかった	2
ややわかりやすかった	0
どちらとも言えない	0
ややわかりにくかった	0
わかりにくかった	0

今回の講習会の改善すべき点などをご記入ください

・少し暑いかと思いました。
---------------

文部科学省が「障害者の生涯学習事業」を推進し始めたことを知っていましたか？

はい	2
いいえ	0

地域コーディネーターとして、障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？(その理由は？)

はい	2
いいえ	0
どちらとも言えない	0

保護者として、お子さんが学校卒業後も地域で学ぶことができる場が必要だと思いますか？(その理由は？)

はい	2
(その理由) 地域の方に子どもの存在を知っていただくため	
いいえ	0
どちらとも言えない	0

公民館などの公共施設等の生涯学習事業に障害者の視点を取り入れる場合、どのようなことが必要だと思いますか？

・地域の方との交流もできるので、知ってもらうことも大事だと思います。 ・障害者の方に利用してもらい、意見を聞いてみる必要があると思います。
--

自由記述

・さくらんぼの娘も参加したかったと言っていました！
---------------------------



## アンケート結果

### 2 ボッチャ大会にて

ボッチャ大会アンケート結果（公民館）

R3.10.23

所属

公民館	12
-----	----

大会を迎えるにあたり、当てはまることはありますか？

ボッチャに興味を持った・調べた	10
瀬戸特別支援学校に興味を持った・調べた	1
地域の障害福祉事業所に興味を持った・調べた	2
当てはまるものはない	0
その他	0

障害者の方と地域の方との結びつきを深めるためには、地域でどのようなことを行うと良いと思いますか？

障害者の方と地域の方が交流できる場を設ける	10
障害福祉に関する講座を開催する	3
障害者の方が活躍する場を見に行く	3
わからない	0
その他	3

・パラリンピックのボッチャに興味をもって見ました。とても面白かった。  
・ボッチャには関わりたくない。障害者の方に接することが私自身が辛いから。  
・普段からさくらんぼ学園の子供達に携わる仕事をしているため。

具体的な案があればご記入ください

- ・ 障害者の方々と接する機会が全くないので実際にはわからないと言うところであるが、もしも交流できる場所や対話等は必要かと思った(ボッチャ大会に参加して)。
- ・ 施設を改良して障害者の方にも気楽に使用できると良いです。

障害福祉と地域の繋がりを深めるために、ご自身の立場からどんなことができると思いますか？アイデアなどがあればご記入下さい。

- ・ 地域との交流を深めるため定期的な事業を企画する。
- ・ お手伝いはしたいと思う。何をしたいかが少しわからない。
- ・ いろいろな行事の中で一緒にできる事を考えて実施する。小学生、老人クラブとも交えて遊びながら学ぶ。
- ・ 八幡公民館では2年に1回公民館フェスタを開催しております。サークル発表、展示会、模擬店などを行っていますので、障害福祉の方々にも見て参加して頂き、交流の場ができるといいと思います。
- ・ 障害者の方を理解する、交流する。
- ・ 今公民館の運営委員をやっている関係、もっと地元の公民館等と関わり合ってはどのようにか？地域と繋がるためにはそれが一番早い様に思います。
- ・ 今回の様にボッチャ大会など行事、イベントがあれば参加したいと思います。地域力向上委員会では、防災などの活動もしています。防災訓練なども良いのでは。

障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？

はい	2
いいえ	2
(その理由) ・ 公民館の建物がバリアフリーに対応できていない。	
どちらとも言えない	7
(その理由) ・ 障害者の方々との付き合い方に不安があるため。 ・ できる事はしたいと思うが。 ・ 携わりたいという気持ちがあっても中途半端ではできないと思うから。 ・ 私自身年を重ね体力等に自信がなく、自分の事になると消極的になってしまいます。でも協力はしたいと思っています。	

## 自由記述

- ・参加された子ども、青年、大人の選手の競技に対する真っ直ぐな思いが感じられ、日頃からの練習が充分行われていて、競技への集中力が高いと思った。身体的な差があるかもしれないが、健常者以上と感じる点も多く感じた。
- ・障害者の方々の活動が理解できた。また競技に対する真剣な姿勢を見ることができた。十分健常者と協議ができると感じた。
- ・ボッチャの講習を受け、大会のお手伝いに行き、ボッチャ競技を行っている障害者の頭脳プレーに感動的なものを感じた。これからはもっといろいろな所（公民館などで）ボッチャのデモンストレーションを一般老人やサークルの人たちとできると良いかな。
- ・大会の運営もスムーズに開催され非常に良かったです。判定する所はスタッフに説明が欲しかった。地元でボッチャを取り入れ皆に広めて関心を高めたい。
- ・大会関係者の方々お疲れさまでした。ボッチャという競技は今回携わっていなかったら東京パラリンピックでも見てなかったかもしれません。障害の違いはあっても、白いボールにより近づけようとする思いがひしひしと伝わってきてとても感動しました。
- ・障がいのある人の大会と思っていたのですが、いろいろ工夫されていて障がいがない人でも楽しめるスポーツだと思いました。
- ・とても面白かったです。夢中になり力が入りました。ますますボッチャが好きになりました。大会に参加でき嬉しかったです。準備等大変だったと思いますが、ぜひこれからもこの大会を続けてください。
- ・コロナ対策もされてて、障害者の方たちの為にも半日という時間の中で、みんなが楽しめるボッチャでお手伝いを通して交流ができ、同じようにハラハラドキドキしながらみんなで盛り上がり楽しい時間でした。ボッチャは子供達も授業でやっているの、発揮できる場があるのは良いと思います。

## ボッチャ大会アンケート結果（障害者本人）

R3.10.23

所属

杏	4
ジョブスタイル	6
らいむ畑	4
卒業生	2
瀬戸特別支援学校	10

今日のボッチャ大会は楽しみにしていましたか？

すごく楽しみにしていた	21
楽しみにしていた	3
ふつう	2
あまり楽しみにしていなかった	0

（楽しみにしていたと答えた人）その理由は

ボッチャが面白いから	5
みんなとボッチャをするのが楽しいから	16
休みの日にみんなと会えるから	5
なつかしい先生たちと会えるから	4
その他	0

（ふつう・あまり楽しみにしていなかったと答えた人）その理由は

ボッチャがうまくできないから	1
ボッチャは楽しくないから	0
休みに日にはのんびりしたいから	0
大勢の人と会うのは緊張して疲れるから	0
その他	1



ポッチャ大会で一番良かったことを書いてください。

・最初の試合で3点をとることができました。でも2回目は0点、3回目は引き分けになりましたが、それでも楽しくポッチャをすることができました。またやってみたいです。

・交流できて楽しかった。久々に小学部のみんなに会えて嬉しかった。休日に家からあまり出ることがないから久々に外出できて嬉しかった。

・先輩がサプライズで来てくれて、とても嬉しかったです！小・中・高（さくらんぼの）で久しぶりに集まって会話できて楽しかったです！ポッチャ大会を通じて、試合よりも友達や先生、地域の皆さんと交流できてよかったです！

・みんなや懐かしい先生たちに会えたこと。

・知っている人にも会えたしポッチャを通じて交流ができた。

・ほんとに楽しかった。みんなと仲良くできた。

・初めての参加でポッチャを知ることができたこと。

・1回目で良い球が投げれたことがよかった。

・試合で勝てたことが楽しかった。

・お手伝いの人たちがたくさんいて、またたくさんの方が声掛けしてくれて嬉しかったです。

・ポッチャをやって最初の試合で緊張してうまく投げられませんでした。・ポッチャ大会があったら今度はうまく投げたいです。

・ボールをうまく投げました。

・みんなと試合ができたことがよかった。接戦になりハラハラした。

・みんなとポッチャができたことが良かったです。池田先生に会えたこともよかったです。

・ボールがまっすぐ投げた。

・みんなで楽しみかったです。ボールで投げて良かったです。

・3位になれたこと。お友達と一緒にポッチャができたこと。

・たくさん練習をしたので本番に成果が出ました。

・優勝したこと

・うまくあった相手の攻撃をとめるボールをうってきたら杏さんの反撃をみせるときがくる またやりたいです。またやりたいです。ぼくを選びたいです。生き残りたいです。代表としてたまをぶつかるようにしたいです。そして優勝したいです。目標は10連続したいです。

・コミュニケーションがとれて良かった。

休みのときに、ボッチャ大会のように友だちや地域の人とスポーツや音楽や美術、好きな勉強などをしたいと思いませんか？

はい	20
いいえ	1
わからない	1

休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか？

スポーツ	15
ゲーム	11
ダンス	10
料理・お菓子づくり	8
音楽	8
美術・工作	7
英会話	6
おしゃべり	5
ハイキング	5
パソコンの使い方	4
演劇	4
歴史	2
ペットのこと	2
読書・読み聞かせ	2
写真	2
スマホの使い方	2
その他	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画… 2</li> <li>・カラオケ… 1</li> <li>・ボッチャ、車いすテニス、車いすバドミントン</li> </ul>	

どういう人と一緒に学んだり体験したいですか？

障害のある仲間	16
各分野の専門家	4
ボランティア(一般)	6
ボランティア(大学生)	4
その他	3
・職員さん…2 ・友達…1 ・いろいろな人と触れ合いたい…1	

今までに公民館や地域交流センターを利用したことはありますか？（小学部）

ある	3
ない	2
わからない	1

## ボッチャ大会アンケート結果（支援者等）

R3.10.23

所属

障害福祉事業所職員	7
地域コーディネーター	2
ハッピーキッズ	1

出場した選手の様子を見て、当てはまるものを選んでください

楽しんでいた	11
頑張っていた	10
難しそうだった	1
つまらなそうだった	0
わからない	0
その他	2
<ul style="list-style-type: none"> <li>・負けて悔しい思いをしておりました</li> <li>・体育館が寒そうだった</li> </ul>	

(今大会に参加した障害者の方の支援者や保護者の方はお答えください)ボッチャ大会に向けて、利用者の方やご本人に変化はありましたか？

あった	8
なかった	0
わからない	2

(あったと答えた方へ)どのような変化がありましたか？

- ・学年が異なると会う機会が少ないため、先輩や後輩に久しぶりに会えて嬉しそうでした。また、卒業生にも会え、刺激を受けたようでした。
- ・ご本人がボッチャの話題を出したり、(話題を出さない方も)「大会頑張ろうね」と伝えると意欲的な表情が見られた。
- ・練習にも積極的に参加される方ばかりでした。ボッチャが楽しいというところが表情などで分かりました。
- ・練習に励み、大会当日をととても楽しみにしておりました。
- ・ジャックボールをしっかり確認して投げる事ができていました。
- ・大会参加を楽しみにしてみえました。
- ・ボッチャ大会の日を楽しみにしてました。
- ・大会前から施設の仲間達と一生懸命練習をして団結力が芽生えました。練習中とても楽しそうでした。
- ・毎日休憩時間に練習をしていました。当日は作戦通りにうまくいくと皆でガッツポーズをして、はずしてしまうと励まし合って…とチームワークを学ぶ良い機会になったと思います。ありがとうございました。

今後、障害福祉と地域の繋がりを深めるために「障害者の生涯学習事業」の推進をしていきますが、ご自身の立場からどんなことができると思いますか？

- ・イベントを実施する際は、サークルのメンバーに声をかけ参加を呼びかけることができる。また当日もスタッフとして参加メンバーをサポートする。
- ・地域の人たちと障害のある人達との関わりが深められるように声掛けをし、橋渡しができると思う。
- ・イベントのお手伝い
- ・またこのような大会に参加したい。
- ・家庭や地域でもこの事業について話題にするなどしたい。
- ・事業所においても、定期的(部活動的)な取り組みとして取り組んでいきたい。今回の大会参加で利用者の皆さんが継続していきたくて思ってみるのが感じ取られました。事業所職員も県社協の審判講習への参加など取り組んでいきます。
- ・ボッチャの大会までの経験から、審判ができるように講習を希望。
- ・今の事業所だけではなく、他のところへも繋がりを持つことができると考えております。
- ・利用者さんと一緒に参加し支援していきたいと思っております。
- ・さくらんぼの方、卒業生からどんな事ができたらいいのか聞く。

障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？

はい	7
いいえ	0
どちらとも言えない	2

その理由は？

「はい」と答えた理由

- ・学校卒業後は地域で活動するところがなかった。自分の子どもにとっても生涯学習に参加することは将来地域での居場所になるかもしれないから。子どもが楽しめる場を作りたい。
- ・障がい者の方の生きがいのお手伝いが少しでもできたら嬉しいです。
- ・どなたも生き生きとした生活を送られるために、社会の中でいろいろな方がおられることをお互い知れるように。
- ・みなさんの生き生きとした姿を見続けていたい。
- ・お手伝いできることがあれば…自分の子どもにも利用させたいと思ったから。
- ・今の仕事にもつながるかと思ったから。
- ・機会があれば。

自由記述

- ・コロナ禍で開催まで色々大変だったと思いますが、無事に大会を終えることができ本当に良かったです。ポッチャは誰にでもできるスポーツだと改めて思いました。瀬戸でもっと輪が広がるとよいと思います（各公民館で開催するとか）。今回は教室での待機となり、他のチームの方々と交流ができず残念でしたが、次回はもっとたくさんのチームが参加して、みんながポッチャを楽しめると良いですね！また来年も参加したいと思いました。
- ・卒業生と会え、刺激を受けたようでした。卒業後の進路のことなど聞ける良い機会だと思いました。もう少し地域の方と交流ができればよいと思いました。
- ・スタッフの方々の準備や誘導、進行などとても行き届いていて気持ちよく参加できました。ありがとうございました。一般の高校生の方とも試合ができるのはポッチャならではだし、少しお話ししたりと交流できてよかったです。
- ・利用者の生き生きとした姿を久しぶりに見させて頂いた気がします。コロナ禍で体を動かすことなどが減っていることもあり、皆さんにとって良い運動の機会となったと感じています。大会運営のみなさんありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。
- ・コロナの関係で直接応援ができなかったことはとても残念ではありますが、リモートで様子が見えていたのはとてもよかったなと思いました。次回大会時に直接応援ができるような環境であることを願っております。
- ・皆さんとっても楽しんでみえたので、ポッチャをこれからもできる機会を増やせばと思います。
- ・コロナが落ち着かない中、工夫をして開催してくださりありがとうございました。今回卒業生はつばきや春日台の方が多かったですが、今後交流する場が増えるといいなあとと思いました。

ボッチャ大会の様子



# ボッチャ大会の様子





## Ⅱ. 視察研修

視察研修先、日程、参加者及び「視察研修報告書」は以下の様である。

### (1) 見晴台学園・見晴台学園大学

#### ① 参加者

視察日（曜日）	視察者名	所属
10/5（火）	稲垣宏和 中島宗仁 三山岳 川地里香	瀬戸市健康福祉部社会福祉課課長 瀬戸市市長直轄組織まちづくり協働課課長 愛知県立大学 生涯発達研究所所長 瀬戸市市長直轄組織まちづくり協働課
10/12（火）	林ともみ 牧 治 相馬貴久	株式会社パーソナルリング取締役 MC&パーソナリティ 瀬戸市立瀬戸特別支援学校 地域学校協働本部長 NPO法人 杏 理事長
10/13（水）	小川純子 川上雅也 中島史恵 船坂礼子	星城大学経営学部特任教授 NPO法人サポート&ケア理事長 瀬戸市健康福祉部児童発達支援センター長 瀬戸市教育委員会 統括コーディネーター

#### ② 研修プログラム

10:30	（集合） 自己紹介 視察研修の趣旨 見晴台学園の説明（パワーポイント）	----- 田中（コーディネーター） ----- 藪
	★ 資料：学園の概要、授業略案等	
10:50	見晴台学園内見学 授業 生徒との懇談	----- 加藤、青木
11:20	見晴台学園教員・父母との懇談	----- 藪
11:50	（見晴台学園から見晴台学園大学へ移動---約100m）	
12:00	見晴台学園大学学生との懇談 見晴台学園大学の説明と懇談	----- 大竹、平子
	★ 資料：大学の概要、授業概要等	
12:30	（解散）	

③ 研修報告

視察研修報告書	
名前（社会福祉課長 稲垣宏和）	
視察日	令和 3年 10月 5日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10:30 見晴台学園の説明 10:50 見晴学園内見学 11:20 見晴台学園に通うお子さんの親御さんと懇談 12:00 見晴台学園大学へ移動し学生さんと懇談 12:30 解散
対応者	田中良三学長 藪 一之学園長 ほか
視察内容	見晴台学園にて、本市説明研修の趣旨を説明していただいた後、当該学園の概要や授業略案等の説明を受けた。その後、見晴学園内を見学させていただき、芸術と文化の授業を見学させていただくとともに、施区政活動中の生徒さんとの懇談を行った。次に、見晴台学園に通うお子さんの親御さんと懇談し、学園を選択し、通学させた背景等を伺った。続いて、見晴台学園大学に移動し、学生さん方と懇談し、それぞれのペースで勉学に励み、社会に出る準備をしている様子を伺った。
学んだこと	学習や発達上の障害を抱え、一般課程の高校や大学に通えない、馴染めない方々に対し、障害の状況や特性等に合った環境と、余裕があるカリキュラムにより、学ぶ側の立場に立った教育サービスを提供しており、これが 30 年前から取り組まれてきたことに驚きを覚えるとともに、発達障害に係る診断の増加が否めない現状において、大変重要な取り組みであると認識しました。
その他	学ぶ児者が、喜びや楽しさを感じ続けられる取り組みは、健常者の教育にも必要なことであると感じます。今後の義務教育のあり方にも参考になるところが沢山あるのではないのでしょうか。

## 視察研修報告書

名前（まちづくり協働課長 中島 宗仁）

視察日	令和 3年 10月 5日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 " の見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学の説明及び大学生との懇談
対応者	田中、藪、加藤、大竹、平子
視察内容	見晴台学園の概要 施設内及び授業の様子を見学 保護者との懇談 見晴台学園大学の概要、大学生と懇談
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者にとって自分に合った学びの場は多くなく、障害者が教育を受ける環境の難しさを感じた。</li> <li>・ 障害者一人一人に寄り添った指導、人間関係構築のためには、ゆっくり時間をかけることが大切で、教える側が登校したくなる環境（学びたい気持ちを引き出す）を創っていくことの重要性を学ぶことが出来た。</li> <li>・ 説明を受ける前は、学校に来ることは当たり前という感覚を持っていたが、5年間、学校に登校してくること自体がすごいことだと実感した。</li> <li>・ 自分の意思を伝えることが苦手な子どもが多いが、役割を与えることで、能力を開花させる可能性を秘めている子どもが多いことがわかった。</li> </ul>
その他	

## 視察研修報告書

名前（まちづくり協働課 川地里香）

視察日	令和 3年 10月 5日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番 名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	学長／教授, 田中 良三(愛知県立大学名誉教授). 副学長／准教授, 藪 一之(見晴台学園長)
視察内容	見晴台学園の概要について説明を受け、実際に授業(造形)の様子を見学した。指導者の方とも質疑応答を行った。保護者との懇談では、見晴台学園に入学した経緯と、現在の学園での様子を伺った。 大学に移動し、学生さんから自己紹介及び大学に入学した経緯を聞き、質疑応答を行った。
学んだこと	私が見晴台学園のことを知ったのは、障害福祉を担当する社会福祉課に所属していた頃で、当時、福祉サービス関連の業務をしている中で、障害者の方たちがとても早くから進路選択をしている現状を知り、自分の得意なことを発見できる機会や、自分の適性を知る十分な時間が持てていないという声を聞いたことがあったために、学園の存在にとっても興味を持っていた。 見晴台学園では、ゆっくりじっくり学べる環境が整備されており、本人のやりたいことや、好きなことが見つけられたり、活かせられたりする場所になっていた。大学に通う学生さんの話を聞くと、「もっと学びたいと思ったから大学に通うことを決めた」という声もあり、一度進路選択をした学生さんのやり直せる場所にもなっていた。見晴台学園のような場所が増えていくと、障害者の方たちの生活はより豊かになっていくのではないかと感じた。
その他	

## 視察研修報告書

名前（ 林ともみ ）

視察日	令和3年 10月 12日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	田中良三学長 藪一之学園長 見晴台学園大学関係者及び大学生
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見晴台学園藪一之学園長よりプレゼン説明</li> <li>・学園内教室見学</li> <li>・保護者からのお話</li> <li>・見晴台学園大学の見学と大学生との懇談</li> </ul>
学んだこと	<p>障害があれば、特別支援学校か特別支援学級に行く。そして、その後は障害福祉サービス事業所、または障害者枠で一般就労へ。</p> <p>私は当たり前のように私は心のどこかで思っていました。「自分に合った学びの場を決める。」「自分のペースでじっくり学ぶ。」障害があっても、そんな選択もあっていいのだと改めて思いました。同じ年齢でも、もっと学びたい人もいれば、早く働きたい人もいます。障害があっても専攻科や大学に行ってもいい。でも、残念ながらそんな選択があることを知らない人が、親も含めて多いのだと思いました。生きづらさを感じ、居場所を探している子どもたちに教えてあげたい、ゆっくり考えるチカラ、自分で考えるチカラを仲間と気持ちを分かち合いながら高めていって素敵なことだと思いました。そして、先生方のフランクで明るく優しい姿にも感動しました。ともに過ごす時間の中で思いを共有し、お互いを認め合っているのだと思いました。先の見えないこの時代。大切なのは何かあっても生き抜くチカラ。そんな自己肯定感を身につけることができる、素敵な場所だと思いました。素敵な機会をありがとうございました。</p>
その他	たくさんの方々、多様な立場の方に、この学園を見ていただきたいと思いました。

## 視察研修報告書

名前（ 牧オサム ）

視察日	令和 3年 10月 12日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	学長／教授, 田中 良三さん(愛知県立大学名誉教授) 副学長／准教授, 藪 一之さん(見晴台学園長)
視察内容	田中先生より学園開学の精神、経緯を熱情を持って説明して頂いた。 藪先生からは、どんな子供たちがここにきているか、どんな気持ちでやってきた子供たちをどんな気持ちで迎えているかを説明頂いた。 その後実際の授業風景を見学した。
学んだこと	<p>私にはさくらんぼ学園に通う高校三年の息子がおり、今回のお話は、実には的を得た、今までもやもやしていたものが落ちたような、誠に腑に落ちたお話しばかりでした。</p> <p>今の支援教育では、健常児よりも、実はもっとゆっくりに、そしてもっと多くのことを学びたい、と思っている子供たちにとって、選択肢無しに10代で社会人として追い出されるわけです。(普通大学に行ける子は除きます) 健常者には、勉強の機会も、キャンパスライフも、友人との交流(麻雀に呆ける4年間)もあるのに。</p> <p>見晴台学園の高校5年生システムは、初めの三年で教養勉強を身に着け、次の2年間の専攻科にて進路教育を実施するなど、これまた的を得た教育であると感じました。</p> <p>また韓国にはすでに専攻科システムが採用されていると聞き、日本の支援教育の遅さ(古さ)を思い知った次第です。</p> <p>そしてこの後に大学まで用意されており、自分の追求したい勉強、社会勉強ができるのです。素晴らしいとしか言いようがありません。</p> <p>学びの機会の選択肢がまるでない現状の打破を、田中良三先生方は国に要望を出し続けておられると聞き、応援したいと強く思いました。</p> <p>全国的には数か所開校されているそうですが、ほとんどが私立(無認可)で、公立では国立鳥取大学に付属学校があるのが全てのようなようです。</p> <p>小さな市でも日本で初めて「普通校に併設された支援学校」を設立させた瀬戸市にとって、次なる支援教育の種がここにあったことを感じました。</p> <p>伊藤瀬戸市長にはぜひとも話を聴いてもらい、ぜひとも瀬戸市でこういう学校の設立を考えてもらいたいものだ、一緒に見学した相馬さん、林さんとも意を同じくしました。</p> <p>瀬戸市立の支援大学校、高校専攻科を日本で初めて作るのも決して夢のことではないと感じた見学会でありました。</p>
その他	

## 視察研修報告書

名前（ 相馬貴久 ）

視察日	令和3年 10月 12日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	学長／教授, 田中 良三さん(愛知県立大学名誉教授) 副学長／准教授, 藪 一之さん(見晴台学園長)
視察内容	・見晴台学園の説明と見学 ・見晴台学園大学の説明と学生との懇談
学んだこと	まず施設に入って第一印象は暖かい施設だなと思いました。 皆が自立をし各自取り組む姿、来客に対しての接し方など見習うところが沢山ありました。卒業してすぐ就職と言う選択肢しかない中、卒業後まだ学ぶ場所が有ること皆が喜んで勉強している姿に感動を覚え他でも同様の施設が増えてほしい、増やしたいと思います。
その他	

## 視察研修報告書

名前（ 小川 純子 ）

視察日	令和3年 10月13日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	藪一之 田中良三
視察内容	○見晴台学園 ・見晴台学園の説明(PPT 視聴) ・高等部の授業(英語)の様子(参観) ・高等部専攻科の授業(陶芸)の様子(参観) ○見晴台学園大学 ・見晴台学園大学の説明(PPT 視聴) ・保護者との懇談 ・見晴台学園大学学生との懇談(質疑応答を含む)
学んだこと	・見晴台学園の歩み(歴史) ・見晴台学園の現状 ・保護者の思い ・「学ぶ」とはどういうこと? 「学び続ける」とはどういうことだろう?
その他	・見晴台学園大学の学生さんとの懇談で、いろいろと質問が出たが、それぞれの学生さんが自分の言葉で一生懸命に応えようとしている姿は、学び続けることの大切さを伝えていると思った。 ・時間をかけて、丁寧に学び、好きなことをさらに好きになっていくことは、子どもたちの将来にとって大事なことである。 ・好きなことを頑張るということは、苦手なことも頑張れるということに繋がっていくと思う。



## 視察研修報告書

名前（ 川上 雅也 ）

視察日	令和3年10月13日(水)
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	見晴台学園:藪さん、見晴台学園大学:教員、学生さん
視察内容	<p><u>◎「見晴台学園」概要・理念の説明・懇談</u></p> <p><u>理 念</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの子どもの必要に応じ、真の学力を高め、わかる喜びを知り、学ぶ楽しさを知ることができる教育</li> <li>・互いの人格を認め合い、障がいを理解しあい、より高い人間性をめざす教育</li> <li>・子ども、父母、教職員が手をつなぎ、みんなで運営する学園</li> <li>・「自分と自然との共生」「自分と社会との共生」「自分と他者との共生」を目指す。</li> </ul> <p><u>沿 革</u></p> <p>1990年4月、学習障害児のための無認可の高等学校に相当する教育施設として、LDの子供を持つ親たちにより名古屋市南区でスタートした。特定非営利活動法人 学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会が設置・運営を行っています。</p> <p><u>カリキュラム</u></p> <p>教科を「言語と数量」「自然と社会」のように大きな枠組みでとらえています。学習形態も教材も生徒の個別の課題や特性に配慮し、何より生徒自身が学ぶ主体者であることを大切にします。</p> <p>授業では、学園の理念である「わかる喜び、学ぶ楽しさを知る」ことを大切に、苦手なことやできないことにも挑戦しながら、ゆっくりと学ぶことができます。</p> <p><u>◎授業風景の見学</u></p> <p>少人数でそれぞれのペースでゆっくり学んでいました。</p> <p>「授業って楽しい」「わかることやできることが嬉しい」という自由な校風が伝わる授業風景でした。</p> <p><u>◎見晴台学園大学での懇談</u></p> <p><u>開校の目的</u></p>

	<p>「自分らしくゆっくり学びたい」という青年たちのねがいに応えて、さらに、専攻科 5 年間を終えた後の学びの場として設置。広く世の中を見、真実を知り、大事なことを見抜く力をつけ、自分らしく豊かな人生を生きるためにもっと学びたいということで見晴台学園大学を 2013 年 10 月に開学した。</p> <p><u>特色</u></p> <p>特色 1 講義は少人数によるゼミナール形式 教授者と学生の距離が近い</p> <p>特色 2 学生・教授者双方による評価と成績 双方で学びの振返りをしっかり行う</p> <p>特色 3 サブティーチャーの配置 講義・学生生活をがっちりサポート</p> <p>特色 4 研究生制度と卒業生支援 卒業までの学生生活を満喫。その後は自分のペースにあった就職活動をサポート。就職後も希望があれば、継続して支援</p> <p>特色 5 共同研究校との連携 見晴台学園、やしま研究科(大阪)、聖母の家学園専攻科 NEXT(三重)と連携し、学びを通して青年たちの交流を深める</p>
<p>学んだこと</p>	<p>誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、障害者の地域における学びの場を全国的に整備することが急務です。障害のある者となない者の交流による障害理解の促進や、支援者同士の学び合いによる担い手の育成も重要です。学校卒業後の学ぶ場の提案が文科省の発信であったが、2019・2020 年の視察で実際には厚労省の障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス自立訓練(生活訓練)事業で実施されていた。見晴台学園の取組も「地域生活支援事業」の一環であった。今後の展開を考えると文科省での制度設計による事業実施・事業展開が必要だと感じています。</p> <p>「もっと時間をかけてゆっくりと丁寧に学びたい。(学ばせたい。)」</p> <p>「青年期にしかできない楽しい体験をしたい。(体験させたい。)」</p> <p>「腹を割って話しのできる一生の友をつくりたい。(つくらせたい。)」</p> <p>「自立した社会人になるための基本的な力を身に着けたい。(身に着けてほしい。)」</p> <p>「人生のピンチに立たされたとき、支えてくれる人間関係をつくりたい。(つくらせたい。)」という障がいのある青年とその家族や支援者の願いに応えていくためにも早急な制度設計が必要だと痛感しています。</p>
<p>その他</p>	<p>遠い所からの通学、あるいは下宿をしてまでも「通いたい場所」を設置、運営している方々を尊敬します。</p>

## 視察研修報告書

名前（ 中島 史恵 ）

視察日	令和3年 10月 13日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10：30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11：30 教員・保護者との懇談 12：00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	薮一之 田中良三
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 見晴台学園の説明(パワーポイント)</li> <li>○中等部、高等部 本科：言語と数量(英語)</li> <li>○高等部 専攻科：自主学習『SDGs』の活動を知ろう</li> <li>○高等部 専攻科：総合演習(陶芸)</li> <li>* 学園から大学へ移動</li> <li>○大学内の見学と学生との懇談</li> </ul>
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見晴台学園が、障害児(者)の学びの保障とともに、社会に出る前の心の準備の場、もう少し学びが必要なお子さんの居場所となっており、通っている方達の生き生きした姿を見られたことで、このような場所の必要性を感じた。</li> <li>・視察する中で、あくまでも『生徒たちが主体』とする学園の取り組みや職員の方々の姿勢が垣間見られ、自分が本当にやりたいことを生徒自身が選んでいく『自己決定』の大切さを改めて感じる事ができた。また、周りの人と交流したり、必要な援助を受けたりしながらも、“できることは自分です=自立”へと導き、生徒と社会(地域)を繋げる場として学園がその役割を果たしていることを学んだ。</li> <li>・主に幼児の障害児と日々関わっているため、卒園後の子どもたちの将来の姿をイメージする一つのモデル(理想形)を見ることができた。</li> </ul>
その他	

## 視察研修報告書

名前（ 船坂 礼子 ）

視察日	令和3年 10月 13日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番、名古屋市中川区柳森町 2708 番地 板倉ビル 2F
視察日程	10 : 30 見晴台学園の説明 50 見晴台学園内見学 11 : 30 教員・保護者との懇談 12 : 00 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	田中良三学長 藪一之学園長 見晴台学園大学関係者及び大学生
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●見晴台学園藪一之学園長よりプレゼン説明</li> <li>●学園内教室見学             <ul style="list-style-type: none"> <li>1階 高等部 専攻科 → 陶芸(総合)</li> <li>2階 中等部、高等部 → 英語(言語と数量)</li> <li>高等部 専攻科 → SDGsの活動を知ろう(自主学習)</li> </ul> </li> <li>●保護者からのお話</li> <li>●見晴台学園大学見学 大学生4名との懇談</li> </ul>
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園入口で生徒が笑顔で対応してくれたことが印象的で、学園が一人一人に寄り添い、個々の活躍の場を提供するような運営をされていることを即座に感じた。</li> <li>・学校や社会の中で LD への理解が深まらない中、開校された学園によって、当事者もご家族も希望の光を感じたであろうことを保護者の言葉で実感した。</li> <li>・ご家族の方々の応援が専門家や事業者を支え、継続・発展してくる中には、当事者とそのご家族の意思を尊重した運営の基礎があることがわかった。</li> <li>・大学生の中には県外からの入学者もおられ、大学生自身の言葉から大学側の生活面への配慮も感じられた。社会で生きていく力を養うために、見晴台学園大学のような施設の重要性を改めて理解することができた。</li> </ul>
その他	長い期間をかけて学ぶ環境を整えることで、当事者とご家族とが豊かに暮らすことができる力を養い合っていることを知り、深く感動した。社会の中には、障害ではない困難を抱える子どもたちも多く、そういった子どもたちへのサポートに携わる者として大変深い学びの機会となった。

(2) 町田市生涯学習センター「障がい者青年学級」

< 1回目 >

日 時：2021年11月28日（日）10:00～17:00

視察先：東京都町田市生涯学習センター「OB障がい者青年学級」  
（東京都町田市原町6-8-1 町田センタービル6F）

参加者：伊藤貴治（春日井市会議員）

加藤由美子（瀬戸市元発達支援室室長・元市立保育園園長）

勝 伸博（春日井市青少年子ども部長）

志村美和（春日井市・NPO法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 理事長）

田中良三（愛知県立大学名誉教授） \*本視察研修コーディネーター

内藤純子（春日井市文化スポーツ部文化・生涯学習課課長）

藤井奈保（瀬戸市特別支援教育研究会会長、小学校長） 以上7名

研修内容

10時00分 市民大学、視察団に対して、とびたつ会の紹介

11時00分 市民大学の人からの質問

11時30分 市民大学の人退席。視察団との懇談

12時00分 <昼休憩>

13時30分 午後の活動

今後の活動について話し合う。

16時00分 活動終了

17時00分 松田さんから補足説明

< 2回目 >

日 時：2021年12月5日（日）10:00～17:00

視察先：東京都町田市青年学級「ひかり学級」（ひかり療育園：東京都町田市忠生3-6-2）

参加者：伊藤佐奈美（春日井市・中部大学教授）

勝 伸博（春日井市青少年子ども部長）

田中良三（愛知県立大学名誉教授） \*本視察研修コーディネーター

林ともみ（瀬戸市・株式会社パーソナルリング取締役・MC&パーソナリティ）

福田致代（（瀬戸市・Happy kids 代表） 以上5名。

研修内容

(1) 活動の場の見学（町田青年学級「ひかり学級」：日帰り旅行の振り返り、クリスマス会に向けた話し合いなど）

(2) 事業概略についてのご説明（岩田さん他）

(3) 意見交換

## 視察研修報告書

名前（ 加藤由美子 ）

視察日	2021 年 11月 27日 ~ 11月 28日
訪問先	東京都町田市生涯学習センター(まちだ中央公民館)
住所	東京都町田市原町6-8-1 町田センタービル 6F)
視察日程	11月28日(日) (午前) 町田青年学級 OB「とびたつ会」と市民大学受講生との懇談会 (午後) 町田青年学級 OB「とびたつ会」の発表会
対応者	東京都町田市役所 松田泰幸氏
視察内容	10:00 市民大学 視察団に対して「とびたつ会」紹介 参加者 自己紹介・歌 11:00 市民大学参加者「とびたつ会」参加者への質問 12:30 視察団との懇談会 12:00 昼休憩 13:30 「とびたつ会」参加者近況報告 「とびたつ会」今後の活動についての話し合い 視察団からの質問及び「とびたつ会」参加者からの質問など 16:00 「とびたつ会」活動終了 松田さん補足説明 17:00 終了
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者がとても生き生きと参加されていることが印象深く、就労先の出来ごとを素直に表現され本当に、楽しい活動になっていることに気づかされました。</li> <li>・歌一曲一曲の手作りの歌詞の内容も胸をうち、日ごろの気持ちが何気にしかも思いが込められ、単純な私は、途中で涙がこぼれそうになり、成人期の余暇活動の必要性を強く感じました。</li> <li>・瀬戸市にもこういう余暇活動が展開できるよう地域の力と連携することができるようこれを機会にしなければと考えさせられました。</li> <li>・誰もが余暇を有意義に過ごすことは大切と実感できました。</li> </ul>

## 視察研修報告書

名 前 ( 藤井 奈保 )

視 察 日	令和3年11月27日(土)～11月28日(日)
訪 問 先	東京都町田市生涯学習センター(まちだ中央公民館)
住 所	東京都町田市原町6-8-1 町田センタービル6F
視 察 日 程	11/27(土)新横浜駅周辺にて宿泊 11/28(日)10:00～16:00「とびたつ会」活動の見学および懇談会 16:00 活動終了後、支援者による補足説明と質疑応答 17:00 終了
対 応 者	「とびたつ会」支援者 松田 泰幸 氏
視 察 内 容	<p>【午前】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とびたつ会」の紹介、メンバーの自己紹介、歌の発表</li> <li>・見学に来ていた他市の市民講座の方との質疑応答を見学</li> <li>・メンバーとの懇談会(質疑応答)</li> </ul> <p>【午後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの話し合い活動を見学</li> <li>・メンバーへの質疑応答</li> <li>・支援者との懇談</li> </ul>
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しているメンバーは、自らの意思で参加しているため、とても生き生きしている。「職場以外に通うところがある」ということは、拠り所があるということである。どんな人間でも、「ここに来れば、この人がいる」「ここに来れば、こんなことができる」という希望をもてることは、生きていく上で大切なことである。</li> <li>・原則として、家族等が付き添わないで実施しており、自力で通える方は、徒歩やバス、電車などで通っていることを知り、大切なことだと思った。</li> <li>・多様な障害のある方が交流していることで、話し合い活動が成り立っていると感じた。</li> <li>・支援者やボランティアの方は、メンバーの支援や介助をするが、それが過度ではない。長い間の積み重ねにより、絶妙なタイミングや支援度でさりげなくされており、フラットな関係性を感じた。お互いのことをよく理解していないと難しい、と感じた。</li> <li>・長く続けることは大変難しいということであったが、「人」で成り立っているところが大きく、社会の中で仕組みを作っていくためには、多くの人、労力、時間、知恵などが必要だと感じた。</li> <li>・できないことはない、という希望がもてる視察になった。</li> <li>・各市町に応じたやり方で、できることからやっていくことが大切である。</li> </ul>
そ の 他	市役所などの行政が、この取り組みについてよく知り、支援してほしい。

## 視察研修報告書

名前（ Happy Kids 福田致代 ）

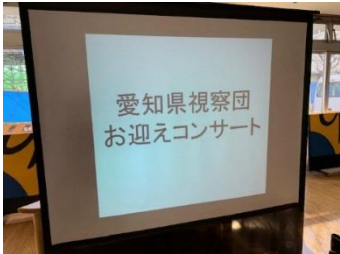


視察日	2021 年 12 月 4 日 ～ 12 月 5 日
訪問先	ひかり療育園 東京都町田市青年学級「ひかり学級」
住所	東京都町田市忠生3-6-2
視察日程	12/5(日) 9:30 ひかり療育園着 10:00～16:00 「ひかり学級」見学 16:00～16:30 質疑応答
対応者	町田市生涯学習センター 岩田 武 さん
視察内容	<p>10:00～あさのつどい…学級ソングを歌う。クリスマス会に向けての検討事項などを伝える。</p> <p>10:30～コース活動(ものづくり)…①日帰り旅行の振り返りと②クリスマス会についての話し合い</p> <p>①班長が全員から話を聞く。アイスを買って食べたのが楽しかったというコメント多数。欠席者におみやげ。</p> <p>②クリスマス会のプレゼントについてはメンバーの意見が分かれて決められず班長会へ持ち越し。</p> <p>※メンバーからの意見がなかなか出なくても、時間に余裕がある為、答えるのまで見守っていた。</p> <p>12:00～昼食</p> <p>12:30～班長会 クリスマス会の食事、プレゼント、歌を各班から報告。</p> <p>※班長が言葉につまる場面があっても主事(支援者のリーダー)がサポート。食事は班によって異なっても可。プレゼントは全員同じ物に決まり、全員了承。(多数決で決めることになった)</p> <p>13:30～クリスマスオーナメント作り…予定時間より早く活動をスタート。折り紙、切り紙、イラストを描いた紙を切り抜いてオーナメントを作る。輪っか作りなど皆好きな事に取り組む。気分が乗らなかつたり眠くなった人は休憩していた。</p> <p>15:30～帰りのつどい…司会より班長会で決まった事を報告。</p>
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らのことを自らが決める「自治」を大切にしている。自己選択、自己決定する機会の少なかつたであろう障害のある学級生が自分の意志を表現できるように、支援する担当者が意見を押しつけることなく、時間がかかってもサポートする姿勢が一番印象に残り見習いたいと思った。</li> <li>・ ひかり学級は、月 2 回 10 時～16 時まで長時間の活動を行っている。彼らの生活の一部になっている事は言うまでもないが、4 つのコースに分かれ担当者も仲間意識を持って活動していることが素晴らしいと思った。担当者は常に学級生の主体性を大切にしていた。</li> <li>・ 一日の流れの中で、彼らの思いがストレートに伝わってくる“学級ソング”を全員一緒に歌うことが始まりと終わりを告げ、たとえ歌えなくても楽器を鳴らし体を動かすことで「ひかり学</li> </ul>



	<p>級」に参加できた喜びが伝わってきた。学級ソングが 200 曲を超え、2 年に 1 度コンサートが行なわれていることは、この青年学級の歴史を感じさせられた。</p>
その他	<p>1975年発行の「教育」で愛知県は障害児の不就学をなくそうと「ちくさ日曜学校」がスタートしたと田中良三先生の報告があり、その同じ誌面に町田市の障害者のための青年学級の実践報告が掲載されていた。あまりにも格差が大きく、衝撃を受けた。しかも行政がこの実践に取り組んでいることは、障害を持つ子どもの親である私にはうらやましい限りだった。</p> <p>会場や支援者の確保、プログラムによっては講師も必要になるため、予算確保が必要となる。文科省委託事業の後、瀬戸市でも「青年学級」のような取り組みが始まることを期待するが、まずはサークルで、コロナが落ち着いたらOB会を実施したいと思う。(ボーリングやカラオケをする予定だったがコロナで実現できなかった)</p>

## 視察研修報告書

名前（ 林 ともみ ）

視察日	2021年 12 月 4 日 ～ 12 月 5 日
訪問先	町田市青年学級「ひかり学級」@ひかり療育園
住所	東京都町田市忠生3-6-2
視察日程	12/4(土) 16:14 名古屋発 17:30 新横浜着、宿泊 12/5(日) 10:00 ひかり療育園 18:10 新横浜発 19:31 名古屋着
対応者	岩田 武 さま
視察内容	町田市障がい者 青年学級「ひかり学級」 10:00～あさのつどい 10:30～コース活動 ①音楽 ②ものづくり ③スポーツ ④課外活動 (私は主に④に参加) 12:00～昼食(フレンズ弁当) 12:45～班長会 13:30～コース活動(①～④) 15:30～帰りのつどい
学んだこと	<p>12月5日、町田市ひかり療育園で開催されている町田市障がい者青年学級「ひかり学級」に視察研修に行かせていただきました。</p> <p>朝 10 時に「あさのつどい」が仲間の司会で始まりました。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>この日は私たちのために「愛知県視察団お迎えコンサート」と題して歌と楽器で歓迎して下さいました。青年学級では、みんなが思いを歌詞にして歌を作るという取り組みがあります。今までに作ったオリジナルの学級ソングは 200 曲あるそうです。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>

その後、10時30分から4つのコースに分かれての活動。

音楽、ものづくり、スポーツ、課外活動とあるのですが、私は課外活動に参加させていただきました。課外活動コースは11月に行った日帰り旅行の振り返りと12月19日に行われるクリスマス会の内容決めをしました。司会は仲間本人で担当者はパソコンで内容を記録、少しのサポートという感じで、中にはお話できない人や介助が必要な人もいます。

もちろん、担当者もサポートしますが、まずは仲間同士がサポートしていることにも感銘を受けました。どのコースも午前中はクリスマス会の内容決めをし、それぞれのコースで話し合った内容をお昼のお弁当のあとに班長、副班長が集まり、班長会で話し合い決定しました。

13時30分からもコース活動でした。私が入った課外活動コースは、まず班長会で決定した内容を班長が伝え、それぞれの活動をしました。このときに歌を作っていく様子を見させていただきました。それぞれが出したキーワードをみんなで歌詞にしていきました。仲間の何人かはギターがなんとなく弾けて、曲もみんなで作っていくのだそうです。



班長会議



課外活動



音楽



スポーツ

ものづくり



帰りのつどい



	<p>15時30分からの帰りのつどいでは、みんなで学級ソングを楽しもうたいました。</p> <p>16時に解散と15になりました。この日の参加者は30名、担当者と言われるスタッフ17名。仲間は年間9,000円の支払いで、担当者と呼ばれるスタッフは市の職員さんもいますが、大半は1日5,000円の有償ボランティアです。感心したのはすべてにおいて本人が主体であること、そして担当者はアルバイト感覚や義務的ではなく一緒に楽しんでいて、何かをしてあげるとい思いはなく、できないことはサポートするけれど一緒に何かを創り上げているのだと感じました。</p> <p>研修前は10時から16時の活動は長いと思っていましたが、思いを語り、関係を築いていくには、これだけの時間をかけるからこそなんだと感じました。</p> <p>そして、こういった活動は「福祉分野」ではなく、「社会教育分野」として認識されるべきだという考えに納得しました。また行政が予算をつけてくれて、場所を提供していることも素晴らしいと思いました。</p> <p>障害があってもなくても、余暇活動や仲間づくりは人が豊かに生きるためには欠かせないことだと思います。障害があることで、率先してこういった場を見つけることができない人のためにも、こういった土台を作ることも共に生きる私たちの使命なのではないかと感じました。こういった取り組みを多くの方に直接見ていただきたいと思いました。</p>
その他	<p>全て当事者本人主体で行われ、スタッフは有償ボランティアではありませんが“支援者”という位置づけではなく“担当”という位置づけであり“待つ”姿勢や話のフリ方も素晴らしいと思いました。まさにこういった活動は福祉分野ではなく、社会教育分野なんだと思いました。</p> <p>ぜひ自分の住む瀬戸市にもこういう仕組みをつくりたいです。</p> <p>やはり行政との協力がなければ(立ちあがり時は)難しいと思いました。</p>

(まとめ)

視察研修事業は、本市での障害者の学びの場づくりについて協議し方向性を示していただく立場にある連携協議会委員に、実際に視察していただき、その場の全体的環境や生の雰囲気を感じていただき、瀬戸市での実現に向けた思いや具体的構想を持ってもらうことを目的に実施した。そのためには、視察研修先で説明を聞き、見学するだけでは不十分であり、コーディネータが同行し、両者をコーディネートすることでより認識を深め、一緒に持ちかえっていただくことを大切にしました。

視察研修には、連携協議会委員の大学教授、瀬戸市職員、学校教員、特別支援学校長、保護者団体代表が参加した。

視察研修では、視察先の先進的な取り組みについて、事前に資料等で情報を伝え、自分なりの考えをもって参加していただくことを大切にしました。そして実際に見聞する中で、その考え方、方法、環境、成り立ちについて深く学んでいただいた。その後、視察研修参加者で、今後、瀬戸市でそれをどう生かせるかについて意見を出しあって検討することができたことは大きな成果といえる。